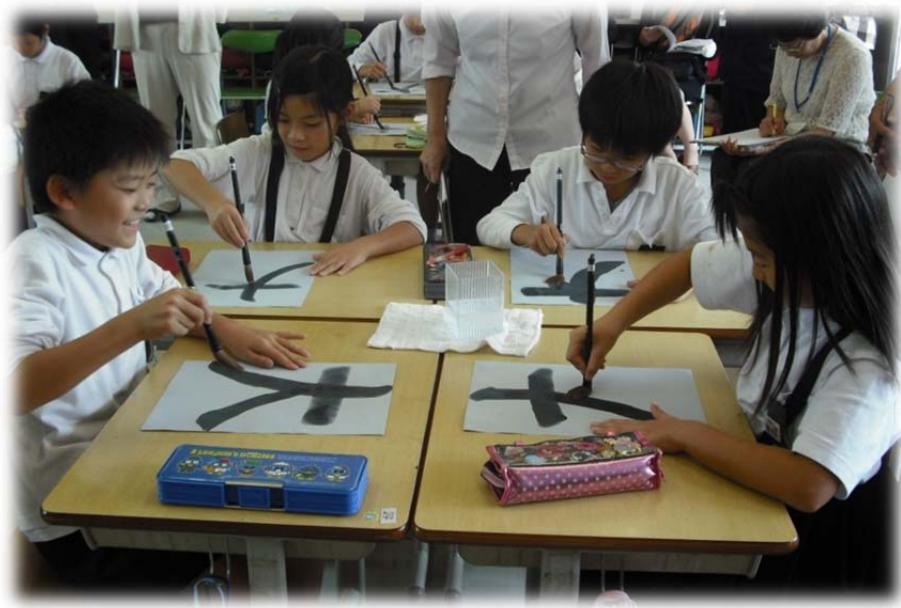


第38回

岡山県書写教育研究大会

研究紀要

平成23年11月25日（金）



井原市立高屋小学校

目 次

はじめに

井原市立高屋小学校 校長 落合 敏恵

I 研究の概要

1	研究主題	-----	1
2	研究主題設定の理由	-----	1
3	研究主題について	-----	2
4	研究構想図	-----	3
5	研究内容	-----	4
6	研究組織	-----	9
7	研究経過	-----	9

II 研究の実践

1	低学年部の実践	-----	1 1
2	中学年部の実践	-----	2 8
3	高学年部の実践	-----	4 5
4	特別支援部の実践	-----	5 7

III 研究の成果と今後の課題 ----- 6 5

おわりに	-----	6 6
------	-------	-----

書写学習年間指導計画

は じ め に

本年度より実施されている学習指導要領では、これからの時代を担う子どもたちに必要な力を「生きる力」の育成とし、学力の重要な要素が明らかにされました。本校においても、基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上を図っていくことが重要な責務であると考えました。

平成21年度末に、本校が第38回岡山県書写教育研究大会の会場校として研究発表をさせていただくことが決定し、それを機会に、本校では書写学習を中心として、児童に「生きる力」につながる「学力」をつけていくことにしました。

「書写」という視点で子どもたちの様子を見ると、正しく鉛筆を持っている子どもが少ない、文字を書く姿勢が悪い、筆順に関係なく適当な字を書いている等の課題が見られました。大人の生活も含めて、普段の生活の中で字を書くという機会が極端に少なくなっているという実態もありました。また、先生が指示することはできるが、自分が考えて課題を解決しようという力も不十分のように感じられました。この子どもたちに、どんな力を付けていけば、今求められている「生きる力」につながる「学力」になるのか、私たち教師の指導のあり方を考えていかなければならないと思いました。

そこで、研究主題を「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成～自ら学び、生活に生かす書写学習～」とし、研究内容を（１）基礎・基本の重視（２）意欲の育つ学習過程の工夫（３）上達した喜びを味わえる評価の工夫（４）生活に生かす工夫の４点に設定し研究を進めてまいりました。これまでの書写学習で重視されてきた作品主義から脱却し、児童が主体的に学ぶ課題解決学習を取り入れ、児童に学ぶ喜びを味わわせると共に、書写で学んだことを社会生活や学校生活に生かせることを目指して、指導を積み重ねてきました。

この度、２年間の実践研究の一部を研究紀要としてまとめてみましたが、研究はまだ浅く、明らかにしなければならない課題が山積みです。ご参会くださいました皆様にご意見・ご示唆をいただき、更に実践を積み重ねて、児童に生きる力として通用する「書写力」を身に付けさせて参りたいと思います。

終わりにになりましたが、この研究を進めるにあたり、岡山県習字教育研究会の副会長港 高明校長先生をはじめ、研究部の宮本毛登明先生、平木雅人先生には、常に的確なご指導・ご助言をいただき、大変充実した研修を重ねることができました。また、いつも温かく研究を支えていただきました井原市教育委員会指導主幹倉田和彦先生をはじめ、岡山県習字教育研究会の会員の皆様、関係各位に心から感謝し御礼を申し上げます。

井原市立高屋小学校長 落合 敏恵

I 研究の概要

1 研究主題

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成」 —自ら学び、生活に生かす書写学習—

2 研究主題設定の理由

(1) 学校教育の今日的課題から

新しい知識・情報・技術が重要性を増す「知識基盤社会」の時代だと言われている今日、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが学校教育に求められている。そこで、知・徳・体のバランスをとりながら、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、及び学習意欲を調和的に育むことが必要であると考えます。

新学習指導要領の国語科においては、「言語活動の充実」と「伝統や文化に関する教育の充実」が主な改善事項としてあげられている。書写の指導については、「文字を正しく整えて生活に役立つ書写の力を育成するため指導の在り方の改善を図る」ことが求められている。

現代の社会では、急速に IT 化が進む中で、パソコンや携帯電話等が普及し、子どもたちの文字を書く機会が少なくなってきたり、文字の乱れや文字を丁寧に書こうという意欲も減退している傾向にある。また、人とのつながりが希薄化する中で、文字や言葉を大切にしたいという思いを適切に伝え合うコミュニケーション能力も低下しつつある。

このような現状から、書写の基礎・基本を重視し、課題解決の学習過程や評価の工夫をしたり、書写学習を生活に生かしたりすることにより、生き生きと主体的に学ぶ子どもを育成したいと考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「心豊かでたくましく、夢をもつてのびゆく子どもの育成」であり、「たくましい子」「かんがえる子」「やさしい子」をめざす子ども像として具現化に努めている。書写学習においても、自分の課題解決に向かって、めあてをもって意欲的に練習したり、友達と認め合いながら向上していこうとしたりする気持ちは、学習の基盤となる大切なものである。書写学習全般を学校教育目標の具現化の場ととらえ、めざす子ども像に迫りたいと考える。

(3) 児童の実態から

高屋小学校区は、県の南西部、広島県との県境にある。学区内を旧山陽道が通っており、古くから繊維の町として栄えた。現在も織物やそれに関連した被服等の工場がある。北部は、自然が豊かな農村地帯で、南部は、国道 313 号線沿いに新興住宅や商店・工場が増えている。「中国地方の子守唄」発祥の地であり、毎年、地域をあげて「子守唄の里音楽祭」が開催されている。また、井原線「子守唄の里高屋駅」前には、華鶴大塚美術館があり、自然と文化に恵まれた地域である。

現在児童数は、250 名で、ここ数年わずかずつではあるが増加傾向にある。保護者は協力的で、児童は学習やスポーツに積極的に取り組むことができている。

児童を取り巻く環境は、テレビ、雑誌、パソコンなど様々な文字に出会う機会に恵まれている。しかし、その一方で、自分で文字を書く機会が少なくなっており、文字を正しく丁寧に書くことができにくくなっている。また、鉛筆を正しく持てない、姿勢がくずれやすい、文字の形や筆順を意識して書けないなど気になる児童の実態がある。

このような実態をふまえ、筆記具の持ち方や筆順などの基礎・基本の定着を図り、児童一人一人が学習や生活の場で文字を書く楽しさを味わいながら意欲的に学習に取り組み、達成感のもてる授業展開を工夫していかなければならないと考えた。

3 研究主題について

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成」

- 児童の「生きる力」を育むために、各教科・各教育活動において基礎・基本の定着を図ることは、本校の教育活動の重点である。

基礎・基本を学習指導要領に示されている基礎的・基本的な知識・技能の習得であると捉え、それを基盤として、思考力・判断力・表現力等の育成を図ると共に、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図っていくことも必要だと考える。

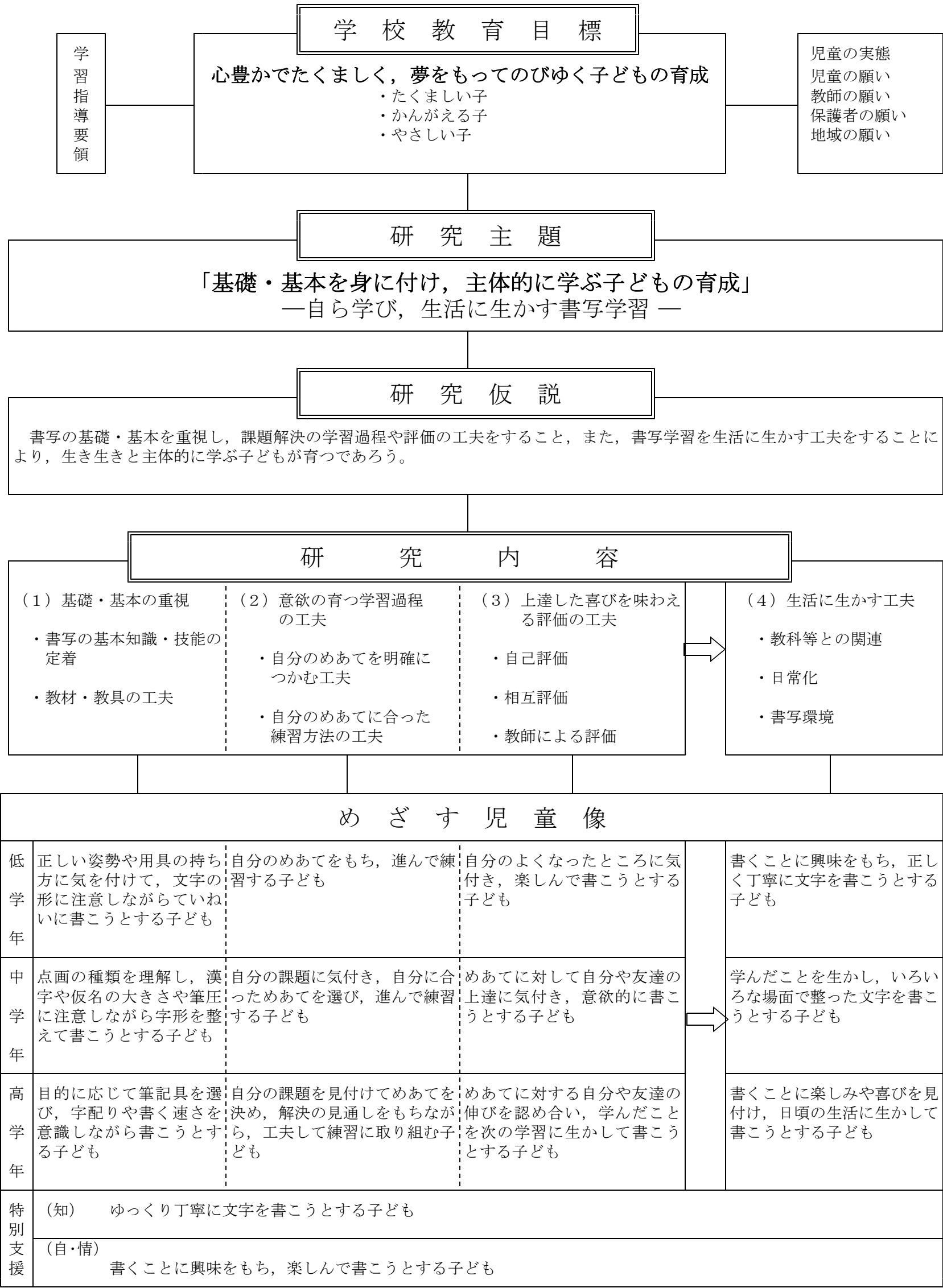
- 児童一人一人が、自らの課題を把握し、その解決に向けて自分なりのめあてを決めて、解決方法を選択しながら、課題を解決していこうとする姿を「主体的に学ぶ」ととらえる。学習過程の中で「主体的に学ぶ」力を支えるものは、「基本的な知識や基礎・基本が定着していること」であり、「課題解決の方法を見付けることができること」である。主体的に学ぶためには、まず、学習の仕方が分かること、そして、自らのめあてをもち、自分で解決した喜びを感じると共に、自己の向上を実感することが大切である。そのため、全教科の中で、主体的な学びの場を設定し、児童の学び合いを通して、達成感や成就感を育成していきたいと考える。

「自ら学び、生活に生かす書写学習」

- 書写学習において「自ら学ぶ」とは、児童が課題をもち解決していく学習の中で、児童が自らの課題解決のために真剣に考え学習する姿である。そこで、今までの手本を見てただ書くだけの学習を見直し、児童が、自分の書いた文字から課題を見付け、その課題に沿っためあてを設定し、課題解決に向けて練習方法を考えたり、上達した喜びを味わえたりする学習過程を工夫することが大切だと考える。

- 小学校国語科書写の改善点では、書写の内容や指導が日常生活や学習活動に直結するよう求めている。これをふまえ、児童の文字に対する意識を高め、場面に応じて正しく整った文字を書こうとする態度を養い、他の教科・領域の学習や日常生活の中に生かしていこうとする児童を育てることが重要だと考える。また、書写学習で学んだことを日常生活や他の学習の中で生かすことは、児童の言語活動の活性化にもつながるものである。

4 研究構想図



5 研究内容

(1) 基礎・基本の重視

書写の基礎・基本を重視し、指導内容を検討しながら、今、児童に何が必要かを互いに共通理解し合って実践することにした。

書写学習に対するアンケートや文字を書いているときの姿勢等の実態調査をして、児童に必要なことを把握しながら、基礎・基本を身に付けさせる取り組みを進める。

さらに、学習環境や教材・教具の研究を進めていくことにする。

① 書写の基本知識・技術の定着

○学習指導要領の内容

1・2年	3・4年	5・6年
ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと	ア 文字の組み立て方に注意して、文字の形を整えて書くこと イ 漢字や仮名の大きさや配列に注意して書くこと ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと	ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと

○書写用語の指導

児童が、発表の中で書写用語を用いることができるように、縦画、横画、左払い、右払い、曲がり、折れ、そり、点、始筆、終筆などの用語を授業の中で教師が繰り返し用いたり、掲示物等の工夫をしたりする。

○書写タイムの実施

毎週月曜日の朝15分間硬筆書写を行い、正しい姿勢や執筆が身に付くように指導する。内容は、基礎・基本、書写授業や他教科との関連内容などから、各学年に応じた工夫をする。

○正しい姿勢や正しい鉛筆・筆の持ち方の定着

正しい姿勢図や鉛筆・筆の持ち方図を常に見えるところに掲示しておくことにより、授業の中で意識させることができるようにする。また、書写体操や合い言葉を活用することにより、正しい姿勢で書く意欲付けをする。

② 教材・教具の工夫

自分の課題を解決するために、練習用紙を工夫したり、水書用紙や砂文字、分解文字などを使ったりする。また、目的や場面に応じた用紙や筆記具の選択ができるようにする。

さらに、動画コンテンツや教材提示装置をいろいろな場面で利用する。

(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

形式的に手本の文字を見て書く授業から、自らめあてをもち、主体的に書写の学習に取り組めるように、課題解決学習を取り入れる。児童が学習を進める中で、自分で選び、自分で決める場面を設定することは、児童の学習意欲を高め、はっきりとした目的意識をもたせることにつながる。

そこで、書写の基本学習過程を「つかむ→すすめる→確かめる→広げる」とし、児童にも学習の流れを知らせることで、見通しをもって学習を進めることができるようにする。

また、学習過程は児童の実態や単元に応じて弾力的に展開するようにする。

① 自分のめあてを明確につかむ工夫

○ためし書きをした後、文字の基準を話し合う。その後、手本と試し書きを比べることにより、ねらいに合った自分のめあてが見付けられるようにする。

○自分のめあてを手本や学習カードに書き込み、常にめあてが意識できるようにする。

② 自分のめあてに合った練習方法の工夫

自分の選んだ方法で練習し、自己批評・相互批評・教師による批評を繰り返しながら上達できるようにする。

○練習用紙の工夫

いろいろな練習用紙を用意し、児童が自分のめあてに合った練習用紙が選べるように支援していく。高学年では児童自身が、自分のめあてに合った練習用紙を作ることができるようにする。

○練習コーナーの設置

水書用紙・ホワイトボード・砂文字コーナーなどの練習コーナーを設置し、児童がめあてを意識しながら興味をもって練習に取り組めるようにする。また、分解文字などで、点画の接し方や文字の組み立て方を考える場面を設定したり、毛筆の穂先の動きや筆圧などを視覚的に捉えさせる動画コンテンツを用意したりする。

つかむ

1 学習のめあてをもつ。

- (1) 題材を知る。
- (2) 試し書きをする。
 - ・手本を見ないで書く。
 - ・空書きした後、書く。
- (3) 基準を知る。
 - ・手本に補助線を引いて知る。
 - ・分解文字をいろいろ並べながら知る。
- (4) 自分のめあてをもつ。
 - ・試し書きと手本と比べながら自分の課題を見付ける。
 - ・発見した基準を話し合いながら、題材のねらいに合った全員や個人の課題を明確にする。
 - ・教師の範書を見たり、説明を聞いたりして課題を明確にする。

- 拡大手本 ○教科書
- 実物のもの・絵・写真・お話など
- 前時の作品 ○よくない作品例
- 学習カード
- めあてカード
- たからばこ（既習事項）
- キャラクター
- 空書き ○動作化 ○書写体操
- 拡大文字 ○分解文字
- 操作文字 ○外形カード
- 教師の範書
- 視聴覚機器の活用
 - ・教材提示装置・動画コンテンツ
- ネームプレート

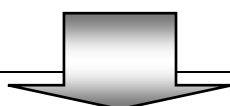


すすめる

2 課題解決の方法を見つけ、練習する。

- (1) 自分の選んだ方法で練習したり、思いを確かめたりする。
- (2) 自己批評、相互批評、教師による批評をする。
- (3) 教師の範書、自己批評、相互批評を参考に、さらに練習したり確かめたりする。
- (4) 新たに生じた課題についても、その解決のために練習したり、確かめたりする。

- 書写体操
- ねらいに合わせた練習用紙
 - ・手本（実物大）・籠書き
 - ・骨書き・筆形・外形・中心
 - ・自分で練習用紙を作る
- 練習コーナーの設置
 - ・水書用紙
 - ・ホワイトボード
 - ・確かめシート
 - ・砂文字・分解文字
 - ・動画コンテンツ
- 机間指導
- 姿勢図・矯正用具・筆使い
- 児童の手を持つての指導
- グループ学習 ○ペア学習



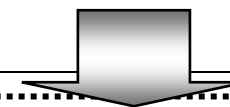
確かめる

3 学習のまとめをする。

- (1) 本時のまとめ書きをする。
- (2) 本時のめあて（自分のめあて）にそって、試し書きと比較し自己評価・相互評価する。
- (3) 毛筆で学習した本時のめあてを生かして、硬筆でも書いて確かめる。
- (4) 他の文字へ広げて原理・原則を確かめる。
- (5) 日常化への意識付けを図る。

- 書写体操
- 学習カード
- シールの活用
- 教材提示装置

- 硬筆との関連学習



広げる

国語科・他教科・領域への関連づけ
日常化
書写環境

- 関連単元
- 書写タイム ○ノート指導 等
- 掲示物・筆記具の整備

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

児童に達成感をもたせ次への意欲につなげるために、自己評価や相互評価、教師による評価を取り入れ、そのあり方を工夫する。また、年間指導計画に評価の観点を入れ、評価と指導の一体化を図るようにする。

① 自己評価

確かめる活動（ふりかえり）の中で、自分のめあてを確認させ、試し書きとまとめ書きを比べることで、自分の作品の伸びを見付けさせる。

② 相互評価

めあてを確認しながらまとめ書きの作品を隣同士または班、同じ課題の仲間で見合い、よくなったところを見付けることができるようにする。また、まとめ書きを交互に見合うことにより、お互いに上達を認め合い、学習意欲を高めることができるようにする。

③ 教師による評価

普段のノートの文字や試し書きから実態把握をして座席表にまとめ、練習中や事後の作品で目標と照らし合わせながら評価する。また、自分のめあてを達成している児童のまとめ書きを全体に提示し、試し書きと比べて伸びを確認することにより、めあてを意識した活動への意欲付けとする。

(4) 生活に生かす工夫

書写の授業で習得した書写力を日常生活に生かし、活用できる力を育むために、国語科・他の教科や特別活動に、書く活動を積極的に取り入れるようにする。

① 教科等との関連（関連単元）

書写の学習で学んだ知識や技能を生活に結び付ける単元を、年間指導計画の中に1～2単元位置づけ、国語科や他の教科、特別活動と関連付けて単元を組む。

② 日常化

様々な文字を、各場面で、正しい姿勢と正しい筆記具の持ち方で丁寧に書くことや、点画や筆順のきまりを理解して、様々な文字に応用して書けることを指導する。

ノートや連絡帳、日記などを書く活動の中で、書写で学習したことを生かすような声掛けをして意識付けを図る。

③ 書写環境

○掲示物

教室の掲示物は、できるだけ手書きにする。正しく分かりやすく書くことにより、児童が、正しく整った文字を書こうという気持ちを高めるようにする。

○筆記具の整備

いろいろな筆記具を用意し、いつでも児童が用途にあった筆記具を自由に選んで使えるようにする。

筆掛けを作り、水書用の筆が手軽に利用できるようにする。

○書写コーナー



< 低学年 >



< 低・中学年 >



< 中・高学年 >

廊下や各学級に書写コーナーを設け、書写の授業で学習した内容や他教科との関連で書いた作品を掲示する。児童が筆使いや文字を整えて書くためのポイントをつかんだり、友達や自分のがんばりを見付け、鑑賞したりすることができる場になるようにする。

(5) その他の工夫

① 指導形態の工夫

- ・TT
- ・グループ学習（ペア，班，課題別）
- ・コーナー学習（課題別）

② 家庭や地域との連携

- ・参観日での授業公開
- ・学年だよりや学校だよりによる地域や家庭との連携
- ・幼稚園・保育園との連携
- ・地域の指導者を招いての授業の工夫

③ 教職員の書写力の向上



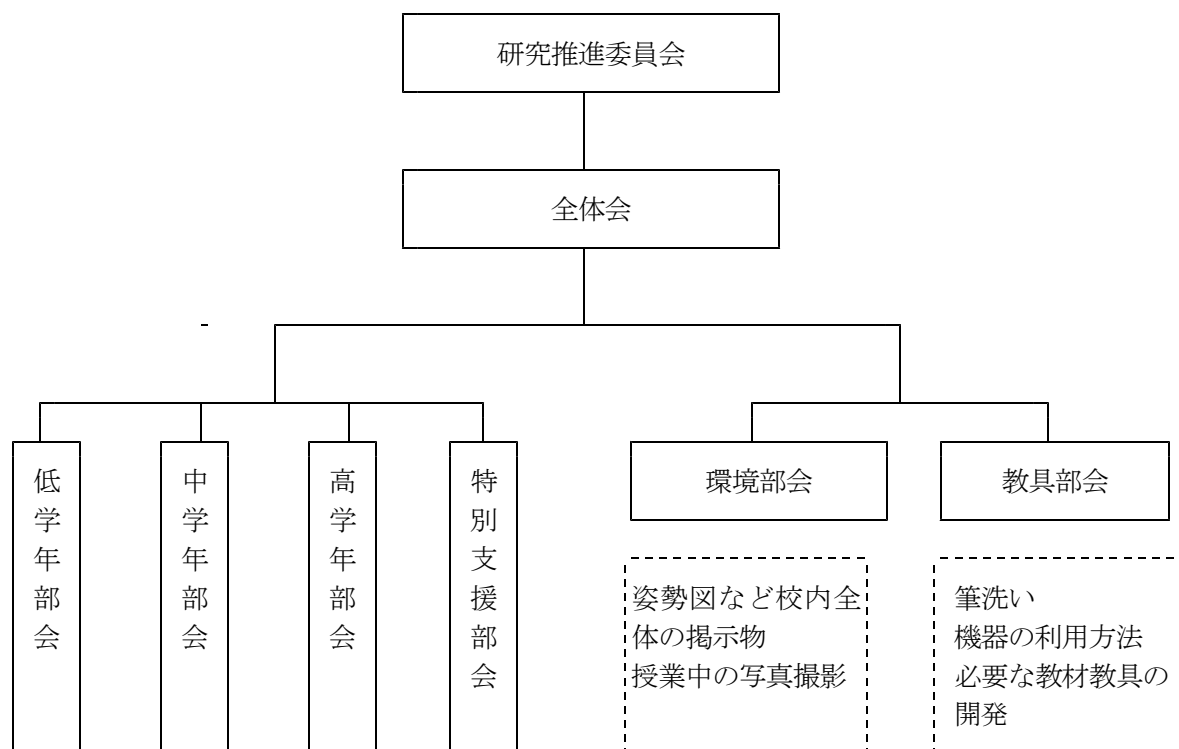
< しんじょうの練習 >



< 講師の先生による右払いのポイント指導 >

教師自身が、基礎・基本をしっかり身に付け、押さえるべき指導事項をきちんと把握したり、実技研修を行ったりする。

6 研究組織



7 研究経過

実施月日	研 究 内 容	
平成22年		
5月19日	全体研修	新しい学力観に立つ書写指導について 研究主題・副主題の考え方について
6月16日	全体研修	講話「新学習指導要領から書写教育に求められていること」 講師 港 高明 校長先生 平木 雅人 先生 宮本毛登明 先生
7月 7日	研究授業	4年 『左右』
12日	研究授業	6年 『ふれあい』
8月 9日	先進校視察	岡山市立箕島小学校 3名
	全体研修	実技講習 講師 武田 栄子さん
20日	全体研修	指導案検討 講師 港 高明 校長先生
9月15日	要請訪問 (研究授業)	1年 『一』『八』 4年 『土地』 指導助言 平木 雅人 先生 宮本 毛登明 先生 川上 吉弘 井原市教育委員会学校教育課参事
10月13日	要請訪問 (研究授業)	3年 『大』 5年 『進め』 指導助言 港 高明 校長先生
11月 5日	先進校視察	三好市立王地小学校・四国書写教育研究会（徳島大会）4名

1 9 日	先進校視察	全日本書写書道教育研究会（愛知大会） 1 名
3 0 日	先進校視察	高知市立朝倉小学校・高知県書写教育研究大会 4 名
		岡山市立旭竜小学校・岡山市書写教育研究会 2 名
1 2 月 1 日	研究授業	2 年 『千』『文』
8 日	研究授業	2 年 「書きぞめをしよう」
1 月 1 8 日	研究授業	あすなろ学級 「冬のことばあつめ」
2 1 日	研究授業	くすのき学級 「くすのきショップの看板や値札を作ろう」
2 4 日	研究授業	3 年 『小』
2 月 1 日	先進校視察	神戸市立唐櫃小学校・神戸市書写授業研究発表会 2 名
1 6 日	全体研修	研究の実践のまとめ
平成 2 3 年		
4 月 7 日	全体研修	研究の進め方について
6 月 2 2 日	要請訪問 (研究授業)	4 年 『名作』 指導助言 港 高明 校長先生 平木 雅人 先生
7 月 1 3 日	要請訪問 (研究授業)	1 年 「じのかたち」 3 年 『人』 指導助言 港 高明 校長先生 宮本 毛登明 先生 倉田 和彦 井原市教育委員会学校教育課指導主幹
8 月 2 日	部会研修	環境部・教具部
1 7 日	部会研修	公開授業指導案指導 2 年, 3 年, 4 年, 5 年 講師 港 高明 校長先生
2 2 日	部会研修	公開授業指導案指導 あすなろ, 1 年, 6 年 講師 港 高明 校長先生
9 月	全体研修	公開授業指導案検討
1 0 月	部会研修	公開授業準備・環境整備
9 月～1 1 月	部会研修	学年部研究授業
1 1 月 2 5 日	第 3 8 回	岡山県書写教育研究大会

Ⅱ 研究の実践

1 低学年部の実践

めざす児童像

- (1) 正しい姿勢や用具の持ち方に気を付けて、文字の形に注意しながら丁寧に書こうとする子ども
- (2) 自分のめあてをもち、進んで練習する子ども
- (3) 自分のよくなったところに気付き、楽しんで書こうとする子ども
- (4) 書くことに興味をもち、正しく丁寧に文字を書こうとする子ども

研究の内容

(1) 基礎・基本の重視

低学年のうちに、「正しい姿勢や用具の持ち方」「筆順」などの基礎的基本的な事項を身に付けておくことが、児童の書く力を伸ばす基になる。そこで、次のことに取り組んだ。

- ・正しい姿勢や用具の持ち方が意識できるように、教室の前面に姿勢図や鉛筆の持ち方の掲示をすると共に、学習中、声を掛けたり、机の手前中央にシールを貼って、おへその位置としたりした。



- ・正しい鉛筆の持ち方ができない児童が多いので、保護者に呼びかけ、矯正用具を準備してもらい、書く活動で使用するようにした。また、鉛筆を持つ機会がある学区内の幼稚園・保育園にお願いして、姿勢図や鉛筆の持ち方の掲示をしてもらい、正しい鉛筆の持ち方の意識付けができるようにしてもらった。

- ・書くときには、書写体操の歌を歌うことにより、姿勢、鉛筆の持ち方を意識させ、書くことへの意欲付けとした。



- ・書字活動に取り組みやすくするために、6 Bの鉛筆や書写（硬筆）用の下敷きを準備するようにした。

- ・筆順の定着を図るために、常に色分けによって筆順を明示した。色分けをした筆順カードを示すことにより、筆順が分かりやすくなり、意識して書くようになった。国語の時間や書写タイムとも関連させながら、定着を図るようにした。

- ・学習の見通しがもてるように、学習の流れを掲示した。

- ・「とめ」「はね」「はらい」などの書写用語をきちんと指導すると同時に、「とん」「ぴょん」「すうっ」など様子を表す言葉と関連付けて理解しやすくした。また、それぞれを表すキャラクターを使用して、児童が興味や関心をもって意欲的に取り組めるようにした。



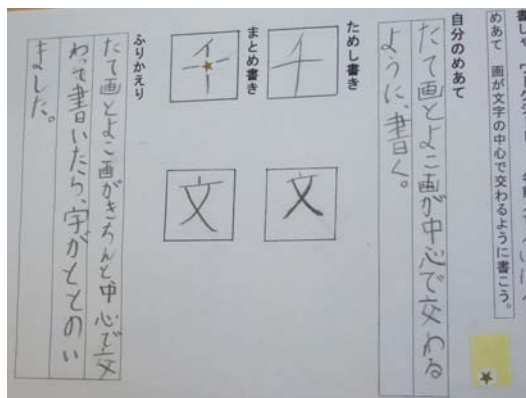
(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

○自分のめあてを明確につかませる工夫

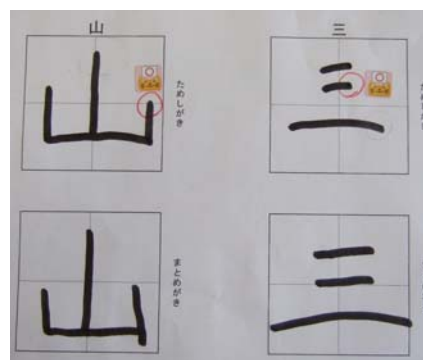
試し書きをした後、手本と比べてどこをどのようにすれば手本に近付くのかを見付けるようにした。字形の整っていない字を提示したり、分解文字や拡大した文字を用いたりして手本と比較し、全体でのめあてを確認するようにした。その後、試し書きに手本を書いた透明シートを重ね合わせたり、手本を横に置いて比較したりすることで、個人のめあてをつかませるようにした。



〈字形の整っていない文字と手本〉



〈学習カードの工夫〉



〈試し書きとまとめ書き〉

○自分のめあてに合った練習方法の工夫

体全体を使って「とめ」「はね」「はらい」などを意識して書くようにした。また、一人一人が自分のめあてに沿って、自分のペースで練習できるように練習の場を工夫した。練習のための用紙も進捗によって選択できるように工夫した。また、運筆が理解できるように動作化を取り入れた。



〈操作文字〉



〈砂文字〉

〈水書用紙〉

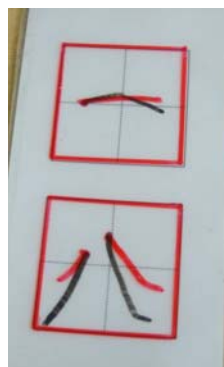


(スイスイお絵かきペン)



(鉛筆の先に綿をつけて)

〈ホワイトボード〉



〈透明シート〉



〈紙ばさみと筆記具入れ〉

(歩いて曲がりを感じ)



(鉛筆になって)



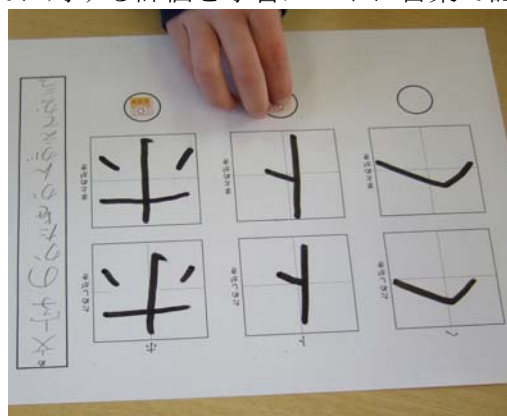
〈動作化〉

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

学習を確かめる段階で、学習カードやシールなどを使って、「自己評価」や「相互評価」をするようにした。この活動を取り入れることで、自分の伸びに気付いたり、友達のがんばりに目を向けたりすることができるようになった。教材提示装置を使用して全員に提示することで、自分のがんばりが友達から認められ、成就感や満足感を味わうことができた。また、教師が児童の伸びを把握して伝えることにより、日常化や意欲の持続につながるようにした。

【自己評価】

- ・ 1枚の学習カードに試し書きとまとめ書きをすることで、1時間の変化を実感できるようにした。
- ・ 試し書きとまとめ書きの字を見比べて「とてもよくなった」「よくなった」「あと少し」を表すシールを貼った。
- ・ 自分のめあてに対する評価を学習カードに言葉で記入した。



【相互評価】

- ・ 試し書きとまとめ書きとを見比べて、良くなったところを友達と教え合った。
- ・ 友達の字でよくなったところを見付け、教材提示装置を使ってクラス全体に紹介をした。



【教師による評価】

- ・ 試し書きやまとめ書きを見て、よくなった部分について声を掛けた。
- ・ 授業中、よくなっているところやがんばっていることを称揚した。
- ・ 児童が書いた練習用紙や学習カードに称揚や助言を書き込み、児童へ返した。

(4) 生活に生かす工夫

①教科等との関連（関連単元）

- ・生活科の昔遊びでお世話になった方へのお礼の手紙や、頑張ったこと発表会への招待状を横書きの書き方に気を付けて取り組んだ。



〈1年生活 お礼の手紙〉



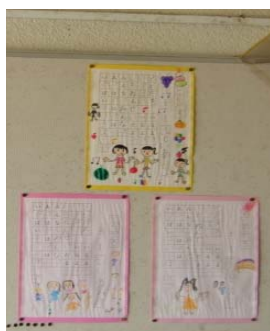
〈2年生活 招待状〉

②日常化

- ・ノートや連絡帳などを書く活動において、正しい姿勢や筆記具の持ち方で字を書くように声掛けなどを行った。
- ・丁寧に書いている児童のノートなどを、教材提示装置を利用して紹介し、意欲がもてるようにした。
- ・国語科の教科書に出てきた詩を字の大きさに気を付けながら書く活動に取り組んだ。
- ・学級活動で決めた一人一人のめあてを筆記具を選んで書く活動に取り組んだ。



〈連絡帳〉



〈1年国語 詩〉



〈2年学活 今年のめあて〉

低学年の成果と課題

(1)基礎・基本の重視

- ・ 掲示物や矯正器具を使ったり、声掛けなどをしたりすることで鉛筆の持ち方や書く時の姿勢、筆順などを意識して取り組む児童が増えてきた。しかし、定着が十分できていない児童もいるので今後も指導を続けていく必要がある。

(2)意欲の育つ学習過程の工夫

- ・ 学習する順番を書いた掲示物を使用したり、同じ流れで毎時間学習したりすることで、「試し書きをする」「めあてをみつける」「練習をする」「まとめる」という学習の流れが定着してきた。
- ・ 拡大した手本や形の整っていない文字をもとに話し合っポイントをしぼり、めあてをつかませるようにした。また、手本と試し書きとを比較することで、自分なりのめあてを意識できるようにした。しかし、めあてをつかませるのに時間がかかることがあり、練習やまとめの時間が短くなってしまったり、日常化の時間を生み出しにくかったりした。時間配分を工夫していきたい。
- ・ 「練習をする」過程で、砂文字・練習用紙・書写ノート・ホワイトボードなどを使い、意欲をもって様々な練習に取り組むことができた。

(3)上達した喜びを味わえる評価の工夫

- ・ 「まとめる」過程で、シールを貼ったり、印を付けたりするなど目に見える形で自己評価をすることができた。
- ・ 自己評価だけでなく相互評価にも取り組むことができ、友達のよくなったところを見付け、教え合うことで満足感を味わうことができた。しかし、めあてに沿った自己評価や相互評価をすることはできにくい。これからも、めあてを意識した評価を紹介したり、称揚したりすることを通して、めあてに沿った評価ができるようにしていきたい。

(4)生活へ生かす工夫

- ・ 日常の書字活動の際、教師が意識して声掛けなどをすることが増え、持ち方や姿勢などを意識して書く活動に取り組む児童が増えてきた。
- ・ 国語科で詩を書く活動や、学級活動で決めた自分のめあてを書く活動では、書写で学んだことを生かして書くことができた。他教科との関連を意識して取り組むことができた。
- ・ 正しく丁寧に書こうとする意識は育ってきているが、普段書くノートでは崩れてしまうこともある。正しく丁寧に書くことのよさを実感できるような取り組みをして、いつでも気を付けて書くことができるようにしていきたい。

実践事例(第1学年)

第1学年2組 国語科書写学習指導案

平成23年7月13日(水)

1 単元名 じのかたち

2 目 標

○それぞれの文字の形の特徴について関心をもって学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

○それぞれの文字の、おおよその形を理解することができる。(知識・理解)

○文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。(技能)

○他の文字についても外形を意識して気を付けて書くことができる。(日常化)

3 指導計画 (全2時間)

第1時 「なつ」「ふゆ」の文字の外形について理解し、正しく書く。(本時)

第2時 「はる」「あき」などその他の文字も外形の特徴を捉え、正しく書く。

4 指導上の立場

○ 本単元は、第1学年及び第2学年での書写の指導事項(ア)の「姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと」を受けて設定されている。本単元は、文字の外形に気を付けて正しく書くことがねらいである。ひらがなは、大きく「しかく」「さんかく」「まる」と仲間分けをすることができる。なんとなく字を書くのではなく、全体の文字の形を意識しながらひらがなを書くことができる力を養いたい。

○ 本学級の児童は、書写の学習に対して興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする児童が多い。フェルトペンや砂文字を使った練習では「もっと練習したい。」という児童も多くみられ、楽しく学習している。ひらがなを正しく書くことのできる児童もいるが、書き順を間違えたり、点画の通る位置を意識できていなかったりする児童もいる。「しかく」や「さんかく」や「まる」といった言葉からどのような形かを大体の児童はつかめているが、よりわかりやすくするために身近な具体物で表す必要もあると感じる。

試し書きとまとめ書きとを見比べて、友達のよくなった点について教え合いができるようになってきている。

○ 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。

- ・姿勢や筆記具の持ち方に気を付けて学習に取り組むことができるように図を示したり、声かけや書写体操をしたりする。手本や練習用紙にリーダー線をいれることによって点画の通る位置に気を付けることができるようにする。
- ・文字の形をかいた透明シートを用意したり、砂文字などの練習の場を作ったりすることにより、意欲的に練習に取り組むことができるようにする。
- ・「確かめる」活動では、友達のよく書けているところを見つけて伝え合うことにより、上達の喜びを味わうことができるようにする。
- ・授業で取り上げる文字のほかにも「しかく」「まる」「さんかく」といった形になるものがないか触れ、それらの文字を練習することを取り入れて日常化を図る。

5 本時案(第1時)

目 標	○それぞれの文字の形の特征について関心をもって学習に取り組むことができる。 ○それぞれの文字の外形に気を付けて、正しく書くことができる。		
学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 個への対応(◆) 評価(◇)		準備物
1 学習のめあてをもつ。 ・今日は「なつ」と「ふゆ」だな。 (1)試し書きをする。 (2)文字の形を知る。 ・先生の「ふ」は形がへん。 ・点々を下にしたらしい。 ・さんかくのかたちを書けばいいね。 2 練習をする。 ・じのかたちにきをつけよう。 3 まとめをする。 ・「ふ」がさんかくのようにかけたな。 ・「ゆ」がまるのようにかけたな。 4 次時の学習を知る。	・挿絵を見て学習する文字について興味をもつことができるようにする。 ・「なつ」「ふゆ」を書くことを伝え、空書きをして書き順を確認する。 ・姿勢や鉛筆の持ち方について声かけや図で示すことにより、意識して試し書きをするようにする。 ・正しい手本と外形が整っていない文字を掲示し、話し合うことにより外形に注目することができるようにする。 ・教科書の枠をなぞることで「なつ」と「ふゆ」のそれぞれの形が理解できるようにする。 ◆形が思いうかばない児童については、具体物を例にあげること形で形をとらえることができるようにする。 じのかたちに きを つけて かこう。 ・試し書きに文字の形をかいた透明シートを重ねることで、文字の形を意識して練習に取り組むことができるようにする。 ・練習方法や練習内容を伝え、姿勢や持ち方についての確認をして練習に取り組めるようにする。 ○砂文字 ○ホワイトボード ○ワークシート ・文字の形を書いた透明シートを重ねたり、砂文字に外形の枠を用意したりし、常に外形を意識できるようにする。 ・列ごとに時間を区切って練習内容を変えることで、意欲が持続できるようにする。 ◆困っている児童には、手を添えて一緒に書いたり、助言を行ったりする。 ◇外形の特征に気を付けて練習に取り組むことができている。(関/ 観察) ・めあてを確認して、まとめ書きをするよう指示する。 ・書写体操をすることによって姿勢と持ち方を意識してまとめ書きをすることができるようにする。 ◇形に気を付けて、字形を整えて書くことができている。(技/ まとめ書き) ・試し書きとまとめ書きを見比べ、めあてが達成できているかどうかを◎◎○のシールを貼り、自己評価をする。 ・友達の試し書きとまとめ書きを見て、よくなったところを教え合い、お互いのがんばりが共有できるようにする。 ◆よいところが見つけにくい児童には個別に声をかけ、試し書きとまとめ書きとでどのあたりが変わったかに気付くことができるように助言を行う。 ・他の文字の外形はどうなっているのかについて問いかけ、次時へつなげることができるようにする。		手本 拡大手本 外形の整っていない文字の掲示物 ホワイトボード ワークシート 透明シート 砂文字コーナー シール

6 本単元の反省と課題

○ つかむ活動

イラストを見せることで、課題の文字に興味をもって取り組むことができた。3画目と4画目が上に上がった「ふ」の整っていない文字を見せ、どのようにしたら形のよい文字になるかを考えることで、本時のめあてである文字の形に目が向くようにした。試し書きで書いた文字に外形のシートを被せることで、課題意識をもたせ、すすめる活動（練習）へと繋げることができた。

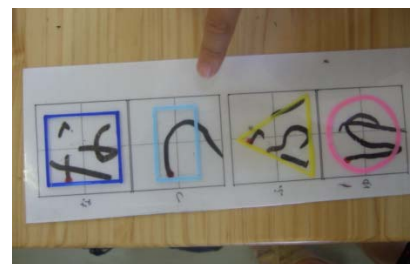
本単元では、全体のめあてをもたせて取り組むようにしたが、単元や学習内容によっては全体のめあてを確認した後、個人のめあてにも気付かせて学習を進めることも考えていきたい。



○ すずめる活動

練習に取り組む意欲が持続するように砂文字・ホワイトボード・ワークシートの練習の場を設定した。

砂文字やホワイトボードでは何度も練習することができ、形に気を付けながら練習をする姿がみられた。砂文字コーナーでは、手本を置いて練習に取り組ませるようにしなければならなかったと思った。また、それぞれのコーナーの練習時間を事前に伝えるなど、児童が見通しをもって練習に取り組めるようにする工夫が必要であった。



○ 確かめる活動

学習カード1枚に試し書きとまとめ書きを並べて書いたり、確かめシートを重ねたりすることで、自分の上達をはっきりつかめるようにした。また、上達したところにシールを貼ることで興味をもって自己評価することができた。相互評価ではお互いの伸びを認め合ったので、満足している様子がみられた。



実践事例（第2学年）

第2学年1組 国語科書写学習指導案

平成22年12月8日（水）

1 題材 書きぞめをしよう

2 目標

- 自分のめあてをもち、意欲的に書くことができる。
- 文字の形や大きさ、中心に気を付けて、正しい姿勢・フェルトペンの正しい持ち方で丁寧に書くことができる。
- 自分や友達のまとめ書きを見て、よくなったところを見付けることができる。

3 指導計画（全2時間）

- 第1時 書き初めの慣習について理解し、文字の形や大きさ、中心に気を付けながら練習する。（本時）
- 第2時 文字の形や大きさ、中心に気を付けながら練習し、まとめ書きをする。

4 指導上の立場

- 第1学年及び第2学年での書写の指導事項に「姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと」があげられている。

本題材は、これまで学習してきた「画の長さや方向」「文字の中心や形」「画の付き方・交わり方」の学習を生かして書き初めをする応用題材である。「書き初め」は、新年に初めて文字を書くことであり、正月二日に書くという日本の伝統文化を継承していることを知る。さらに、これまでの学習を振り返りながら、丁寧に書く態度を身に付けることを目標としている。

- 本学級の児童は、夏の与一展の作品「あおいうみがきれいです。」をフェルトペンで書いた経験がある。また、授業の中でフェルトペンを使う機会があり、フェルトペンの扱いに慣れてきている児童が多い。しかし、正しい用具の持ち方が十分定着していない児童も多く見られる。

正しい持ち方ができる・・・2人

親指が出る・・・・・・8人

中指が前に出る・・・・・・2人

その他、鉛筆の軸が垂直に立つ、鉛筆の削ったところを持つ、人差し指が曲がるなどがある。そこで、矯正用具を書写の時間に限らず書字活動の時には使用させるようにしている。

書いているときの姿勢では、書き始めはよいが、時間が経つにつれて前屈みになって目が近くなる、体がねじれてくる、足の位置が崩れるという状況なので、学習中、声掛けをして意識できるようにしている。

- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成－自らのめあてをもち、上達した喜びを味わう書写学習－」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・基礎・基本では、フェルトペンの持ち方を教科書で理解させ、これまでの既習事項「画の長さや方向」「文字の中心や形」「画の接し方・交わり方」を確認したり、文字の中心線や形の枠がある下敷きで、字の大きさや中心をつかませたりすることにより、正しい姿勢で丁寧に書くことができるようにする。
 - ・学習過程の練習する場面では、中心線の入っている下敷きやホワイトボード、水書用紙を

- 用いて、自分のめあてに合った練習方法を選んで主体的に学ぶことができるようにする。
- ・「確かめる」活動で、互いの作品を見せ合うことにより、友達のよく書けているところを見付けて上達の喜びを味わうことができるようにする。

5 本時案（第1時）

目 標	○正しい姿勢・正しい用具の持ち方で、文字の大きさや中心に気を付けて、丁寧に書くことができる。 ○自分や友達の書いた文字のよくなったところや上達したところを見付けることができる。		
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援 個への対応（◆）評価（◇）	準備物
1 めあてをもつ。 （1）書き初めの意味を知る。 ・書き初めは、正月の行事だな。 ・「お正月」「たこあげ」「新しい年」などの言葉があるよ。 ・1年生の時に書いたから、やり方がわかるよ。 （2）書写体操をする。 （3）試し書きをする。 ・字が小さいな。 ・右に寄りすぎだな。 ・漢字がうまく書けないな。		・書き初めの慣習を理解し、正月に題材をとった言葉や文章を書く慣習であることを知る。 ・書き初めにはどんな言葉をよく書くかを考えることにより、伝統行事と言葉との関連に気付くことができるようにする。 ・書き初め展に出品することを知らせて書く気持ちを高める。 ・用紙の扱い方を知り、フェルトペンで汚さないで書こうという気持ちをもてるようにする。 ・正しい姿勢や用具の持ち方を確認する。 ・試し書きに字形枠のある下敷き用紙をあて、課題をつかむことができるようにする。	拡大手本 手本 清書用紙 書写体操のCD 下敷き用紙
文字の大きさや中心に気を付けて書こう。 （4）めあてを見付ける。		・試し書きで書いた自分の字が、大きさや中心を意識しながら書いているか確かめたことで、自分のめあてをもつことができるようにする。 ①形 ②大きさ ③中心 ・漢字の筆順や文字の中心等を説明しながら書き示すことにより、一枚の紙にバランスよく書くことを意識付ける。 ・練習の場や練習の仕方について説明し、自分の課題に合った練習の場を選んで練習できるようにする。 ①水書用紙 ④練習用紙 ②ホワイトボード ③黒板 ◆練習方法がなかなか選べない児童には、相談にのったり、助言したりする。 ・中心線を確認する透明シートを用意し、随時利用できるようにしておく。	手本 中心線を書いた透明シート
2 練習をする。 ・うまく書けないところをいろいろな方法で練習したいな。			

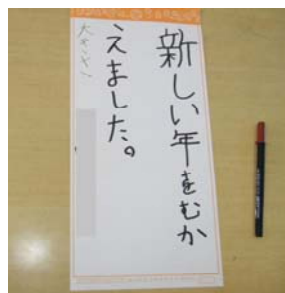
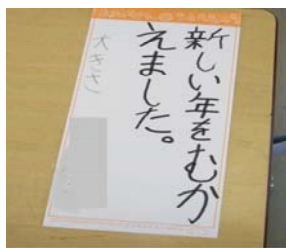
3 まとめをする。 (1) まとめ書きをする。 (2) 試し書きとまとめ書きとを比べる。 4 次時の学習を知る。	・上手になったところやよい姿勢の児童を称揚することで、意欲の持続を図る。 ◆練習用紙にも書くことを促し、各コーナーで練習したことを生かしながら書けるようにする。 ◇正しい姿勢・正しい用具の持ち方で、文字の大きさや中心に気を付けて、丁寧に書くことができる。 ・課題を再確認することにより、文字の大きさや中心に気を付けて、丁寧に書こうとする気持ちが再度もてるようにする。 ・清書用紙に書き、最初に書いたものと比べることにより、上手になったところに気付くことができるようにする。 ・互いの作品を見せ合い、友達のよく書けているところに赤丸をすることにより、上達の喜びを味わうことができるようにする。 ◇自分や友達の書いた文字のよくなったところや上達したところを見付けることができる。 ・次時は、もう一度文字の大きさや中心等に注意して書く練習をし、書き初め発表会をすることを伝え、次時への意欲がもてるようにする。	清書用紙 赤鉛筆
--	--	------------------------

6 本題材の反省と課題

○ つかむ活動

書き初めの意味を知らせ、書き初めに使われる言葉を考えることにより、意欲をもって取り組めたと思われる。

試し書きと手本を見比べることにより、はっきりと自分のめあてをもつことができた。



<めあてを書いた試し書きの用紙>



<筆順や文字の中心の説明>

○ すすめる活動

課題解決のための練習の場を3か所設定したが、どの場所でも文字の大きさの枠がなかったため、大小様々な文字で練習し、用紙に合う文字の練習にはならなかった。

①水書用紙 文字の形や「とめ」・「はらい」を中心に練習していたが、文字の大きさの枠がなかったので、自由な大きさと練習した。

②ホワイトボード

マス目があったので、中心線に気を付けて書くことができる場であったが、用紙の大きさを示していなかったため、線を有効に使って練習できなかった。

③黒板

黒板にもマス目があったが、児童はそれに気が付かず、やはり自由に書いていた。途中で教師が中心線を赤で引いた後は、中心に気を付けて書くことができたようになった。

- ・ ①②③では、消して書ける、短時間で何度でも練習できるという安心感をもって取り組めた点で効果があった。

④練習用紙 練習用紙も使えることを途中で指示したため、練習用紙で練習する児童がいなかった。①②③での練習がすんだら練習用紙でやるように決めておけばよかった。



〈黒板〉



〈ホワイトボード〉

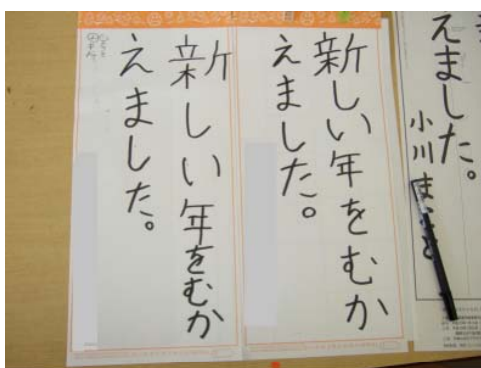


〈水書用紙〉

○ 確かめる活動

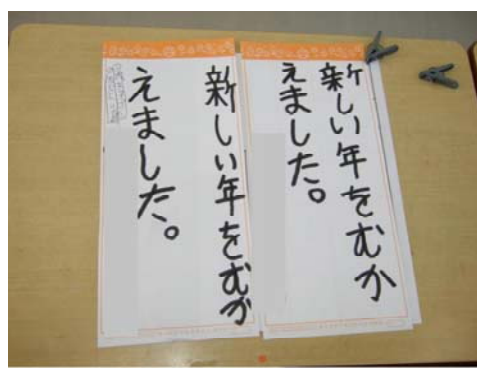
中心線のある下敷きを用いて書いたため、試し書きより中心がそろい、文字の形が整ってきた。

試し書きに自分のめあてを書いていたので、そのめあてを見ながら、試し書きとまとめ書きとを比べて、自己評価をしたり相互評価をしたりすることができた。友達の作品のよくなったところを認める活動を積み重ねてきたので、次第に、よいところを見付けることができる児童が増えてきた。しかし、全体を通して、つかむ活動に時間がかかり、確かめる活動の時間が少なかったため、時間配分を考えていかなければならない。



〈試し書き（左）まとめ書き（右）〉

- ・ 文字の配列に気を付けて書いた。



〈試し書き（左）まとめ書き（右）〉

- ・ 行の中心と配列に気を付けて書いた。

実践事例（第2学年）

第2学年2組 国語科書写学習指導案

平成22年12月 1日（水）

1 題材 画の交わり方

2 目標

- 姿勢や用具の持ち方に気を付けて、自分のめあてをもち意欲的に学習しようとする。
- 画の交わり方に注意して、字形を整えて書くことができる。
- 自分のよくなったところに気付き、楽しんで書くことができる。

3 指導計画（全2時間）

第1時 画が交わる場所を見付け、画の交わり方に注意して練習する。

第2時 画が交わる位置を理解し、画の交わり方に注意して練習し、まとめ書きする。（本時）

4 指導上の立場

- 低学年の書写の指導事項は、「姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くこと」「点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと」である。

本題材では、画が交わる場所を見付けたり、画が交わる位置を理解したりすることにより、画の交わり方に注意して正しく書くことをねらいとしている。漢字をよく観察して、「交わる」と「接している」という違いに気付かせることにより、それらを明確にしていく。画が交わる位置を理解して書くことは、字形が整うことにつながることを学習する。

- 本学級の児童は、書写の時間を楽しみにしており、上手に書こうと意欲的に取り組んでいる。前時で筆順や画のつき方などを学習したが、日常生活では、間違った筆順で雑に書く児童が多い。また、正しい姿勢を保って書くことも難しい。
- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自らのめあてをもち上達した喜びを味わう書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことが基礎・基本である。そのために、書写体操を行ったり、鉛筆の持ち方を意識したりして書くようにする。また、画の交わり方に注意して書くために、画が交わっている部分を拡大して示したり、画の交わる位置が不適切な文字をいくつか提示して画の交わり方を確認したりする。さらに、画が離れていたり接していたりする部分と、画が交わっている部分とを区別できているかどうかを確認するために、画が交わっている部分に赤鉛筆で○を付けて自分で気付くことができるようにする。
 - ・透明シートを使って自分の字と手本の字との交わり方の違いに気付きやすくし、児童自身のめあてが、達成できるように声掛けをしていく。
 - ・まとめ書きと試し書きを比較することにより、友達のよくなったところにシールを貼って、成就感を味わうことができるようにする。また、読む相手を意識して実生活や学習場面で生かそうとする意識を高めていくことができるようにする。

5 本時案（第2時）

目 標	○画が交わる位置を理解し、画の交わり方に注意して整った文字で書くことができる。 ○自分のめあてをもち意欲的に練習し、よくなったところを見付けることができる。		
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援 個への対応（◆）評価（◇）	準備物
1 学習のめあてをもつ。 （１）前時の学習を想起する。 （２）本時の学習を知る。 ・交わり方は二つの字で違 うけれど、どちらも真ん 中で交わっているとき が、整った字になってい るな。		・前時の画の交わり方について掲示し、想起できるよ うにする。 ・画の交わる位置が不適切な文字を使って、画の交わ る位置が中心で交わると整った字になることに気 付くようにする。 ・「千」の交わっているところに丸を付けることで、 二画目の横画と三画目の縦画が文字の中心で交わ っていることを確認できるようにする。 ・「文」の交わっているところに丸を付けることで、 三画目の左払いと四画目の右払いが文字の中心で 交わっていることを確認できるようにする。	文字カード リーダー線
画が文字の中心で交わるように書こう。			
（３）前時の試し書きと手本を 比べて、自分のめあてを もつ。 ・画の交わる位置が上にな るように書く。 ・画の交わる位置はそのま まで大きな字で書く。		・透明シートを使うことにより、自分の書いた字のよ いところや課題を見付けて自分のめあてをもつこ とができるようにする。	前時に書い た試し書き 用紙 透明シート 学習カード
2 練習する。 （１）書写体操をする。 （２）書写ノートで練習をする。		・書写体操で正しい姿勢や用具の持ち方を確認するこ とにより、意欲的に練習に取り組めるようにする。 ・透明シートを活用して交わっているところを確か めて自分のめあてが達成できるように練習をする。 ◆活動が終わった児童には、次の練習用紙を用意して おく。 ・机間指導を行い、上手になったり、姿勢や用具の持 ち方に気を付けて書いたりしている児童を称揚す ることにより、意欲が持続できるようにする。 ◇手本と比べながら画の交わる位置に気を付けて書 こうとしている。	書写体操の 音楽 透明シート 書写ノート 練習用紙
3 まとめをする。 （１）まとめ書きをする。 （２）良いところを見付け合う。 ・〇〇さんのめあては、「交 わる位置が少し右になるよ うにする」で、まとめ書き で、きちんと中心で交わっ ているところがよくなって いました。		・自分のめあてを確認して意欲的に取り組むことがで きるようにする。 ・試し書きと比べて自分や友達の良いところを見付け シールを貼って学習を振り返るようにする。（２人 組で・全体で） ・教材提示装置を使い良いところを全体場で交流で きるようにする。	教材提示装 置 シール

(3) 今日の学習を振り返る。 ・交わるところに気を付けて書くと字が整ったよ。	・今日の学習の振り返りをするすることで、字を書く時に画が中心で交わるように書くと、整った字になったことに気付くことができるようにする。 ◇自分や友達の手書いた文字のよくなったところを見付けることができる。	ワークシート
4 今日の学習を生かす。 (1) 画の交わっている漢字を見付ける。	・画の交わっている漢字に丸を付けて全体で交わる位置を確認し合って次の書写タイムに生かすことができるようにする。 「年・生・教・室」が交わっている所がある。 「年・生・室」は、文字の中心で画が交わっている。	

6 本題材の反省と課題

○ つかむ活動

画の交わるところやその位置を理解させるために、画が交わっている部分を拡大して示したり、画の交わる位置が不適切な文字をいくつか紹介したりした。そのことによって、交わる位置に気を付けて書くと字形が整うことに児童自らが気づくことができ、楽しんで課題をつかむことができた。また全体でめあてを確かめた後に、自分の試し書きに透明シートを重ねて手本と比べることで、より自分のめあてを明確化することができた。

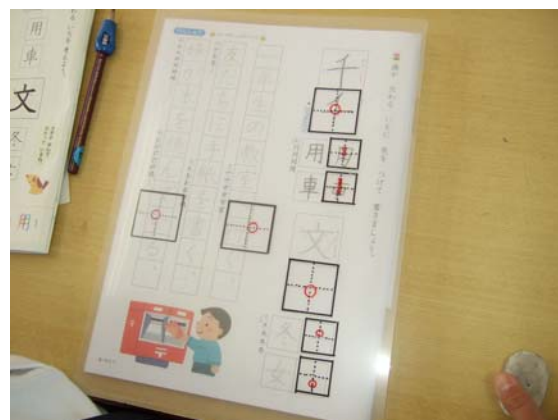
板書は、手本と課題のある字の並べ方を考えた配置をすることで、構造的になるような工夫が必要であった。



<交わる位置が異なった文字>

○ すすめる活動

練習の時にも、交わる位置を示した透明シートを重ねることで自分の書いた文字を自己批評できた。それは、自分のめあてに向けて練習に取り組みやすく効果的であった。ただ、透明シートは、止める箇所を一か所にして開いたり、重ねたりしやすくするなど、改善する必要がある。児童が自分のめあてをもって意欲的に取り組むためには、全体で気を付けるところを確認したり、自分の試し書きと手本を見比べたりする時間が大切である。しかし、練習の時間もしっかり取る工夫が必要であった。

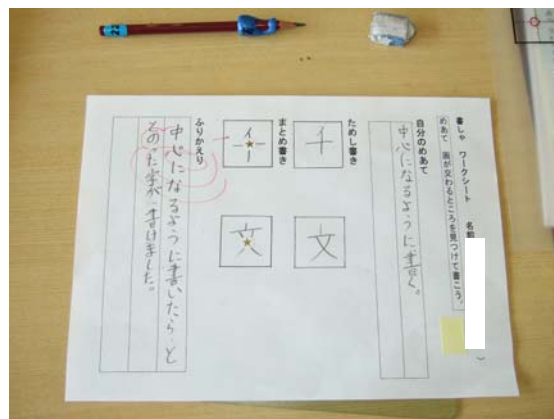


<透明シートを重ねて>

○ **確かめる活動**

学習カードは、試し書きとまとめ書きを並べて比較しやすいように配列した。そうすることで、自分や友達のためあてに沿って、よくなったところに目を向けることができた。

また、教材提示装置を使って全体で交流することで、自分のよくなったところに気付き、達成感を持つことができた。振り返りでも友達に認めてもらったり視覚的に自分の伸びに気付いたりした児童が多かった。



< 試し書きとまとめ書きの比較ができる学習カード >

○ **広げる活動**

書写タイムの時間にも学習したことを生かして、画の交わっているところを意識して書くことができた。日常でも画の交わる位置を意識して書こうとする児童の姿が見られた。特に罫線のあるますに書く時は、意識して書く児童が多く見られるようになったので称揚して持続できるようにしたい。

2 中学年部の実践

めざす児童像

- (1) 漢字や仮名の点画の種類を理解し、大きさや筆圧に注意しながら字形を整えて書こうとする子ども
- (2) 自分の課題に気付き、自分に合っためあてを選び、進んで練習する子ども
- (3) めあてに対して自分や友達の上達に気付き意欲的に書こうとする子ども
- (4) 学んだことを生かし、いろいろな場面で整った文字を書こうとする子ども

研究の内容

(1) 基礎・基本の重視

3年生から毛筆が始まり、毛筆の入門期ということで、基本的な点画の筆使いを理解し、文字の大きさや筆圧に注意しながら字形を整えて書いたり、毛筆で書くときの姿勢を身に付けたりすることに重点を置いて取り組んだ。

- ・姿勢図や筆の持ち方図を教室に掲示したり、授業中、図を示したりして確認し合うことで、正しい姿勢や筆の持ち方に関心をもち、意識して書字活動に取り組むことができるようにした。また、姿勢の合い言葉『ぐう・ぺた・ぴん・さっ・さあ書こう』などを全員で唱え、正しい姿勢を意識して書くことができるようにした。
- ・毛筆書写の道具の準備・使い方・片付けについては、繰り返し指導し、定着を図るようにした。また、用具を丁寧に扱うこと、次回の学習のために正しく後片付けをしなければならないことを理解させるように心がけた。
- ・筆洗いの方法については、各自がふた付きのポリ容器を持ち自分の席で洗い、拭き取るようにしている。席を離れないので落ち着いて洗うことができる。汚れた水は、各自流し口に流すようにした。筆は干して乾かし、容器とともに所定の場所に置いて保管している。



〈ポリ容器での筆洗い〉

- ・学習の見通しをもたせるために、「学習の流れ」を黒板の左端に提示し、学習活動に合わせて磁石等で印を付けるようにすることで、視覚的に理解できるようにした。
- ・筆圧をはっきりと捉えられるようにするために、筆の穂先の大きさをいろいろ変えて見えるようにした。穂先の大きさを『筆あつ君』として大（3）・中（2）・小（1）にして示し、文字に貼ることで、筆圧に注意しながら書けるようにした。
- ・穂先の通り道をつかませるために、穂先がよくわかるように薄墨をつけた筆に穂先だけ朱液をつけたり、水をつけた筆の穂先に墨液をつけたりして練習するようにした。穂先の通るところがよく分かり、意識して書くことができた。
- ・授業だけでは不十分なので、教室内に「水書用紙の練習コーナー」を常設しておき、いつでも筆を持って練習しようと呼びかけ、毛筆に慣れるようにした。



〈水書用紙の練習コーナー〉

(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

○自分のめあてを明確につかませる工夫

- ・ 試し書きの自己批評

試し書きを手本と比べ自己批評し、個人の課題を明らかにさせ、めあてを具体化させた。

- ・ 分解文字、外形カードの利用

文字の組み立て方や画の長短に意識を向けさせるために、分解文字や点画ピースを操作することで、書くときの観点が明確になるようにした。また、基本的な複数の外形カードを提示し選択させることで、文字の外形を視覚的につかませた。

- ・ 範書、動画コンテンツの利用

穂先の動きや筆使いを視覚にとらえられるようにして、自分のめあて決定の一助とした。

- ・ 学習カード・色カード等の利用

学習カードに本時の指導のポイントとなる項目をあげ、短時間で自分のめあてを選ぶようにした。また、手本の横にめあてを書いたり、色カードやネームプレートを使ったりして、常にめあてを意識することができるよう工夫した。



〈分解文字・外形カード〉



〈教師による範書〉



〈学習カード（3年）〉

○自分のめあてに合った練習方法の工夫

- ・ 練習用紙の工夫

籠書き、骨書き、穂先を示す用紙、外形をしめした用紙、水書用紙などを用意し、自分で選択して練習できるようにした。

- ・ 動画コンテンツの利用

穂先の動きや筆使いを必要に応じて、確認できるような場を設定した。

- ・ 練習時の教師の評価

個々の児童の良くできている筆使いを称揚した。朱書き、手を添えて書くなど個別に支援した。



〈練習用紙〉



〈動画コンテンツの利用〉



〈教師による添え書き〉

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

まとめ書きをした後めあてをもとに自己評価をし、隣同士や学級全体等で相互評価を行うことにより、自己の伸びや達成感を得るとともに次の課題を見付け意欲的に取り組むことができるようにした。



〈試し書きとまとめ書き〉

【自己評価】 試し書きとまとめ書きを自分で見比べて評価をしたり、次の時間への課題をもたせたりした。

- ・自分のめあてに対する評価を学習カードや色カードなどに記号や言葉で書き込んだ。
- ・まとめ書きと試し書きを見比べてよくなった部分にシールを貼った。
- ・自分のめあてや、めあてに対してがんばったところを付箋に書いて貼った。

【相互評価】 隣同士や学級全体等で試し書きやめあてに対するまとめ書きの評価を行った。

- ・試し書きとまとめ書きを見比べてよくなったところを隣同士で教え合ったり、クラス全体で発表したりした。
- ・隣同士で書いている様子を見合い、それぞれが決めためあてに気を付けて書けているかどうかを見合ったり、よかったところを教え合ったりした。



〈試し書きとまとめ書きを比べて〉 〈よくなったところは・・・〉

〈まとめ書きの見せ合い〉

【教師による評価】 教師が児童の伸びを把握し、めあてに対してどのようにできていたかを児童に伝えることで、次時や日常化への意欲をもつことができるようにした。

- ・試し書きとまとめ書きを見て、よくなったところについて声をかけた。
- ・授業中、上手に書けた箇所をほめたり、がんばっている児童を紹介したりした。
- ・授業後、児童が書いたものを見て伸びやがんばりを見取り、児童が自己評価をした学習カードに書き込みをして児童へ返した。

(4) 生活に生かす工夫

① 教科等との関連 (関連単元)

書写の時間と各教科、特別活動、総合的な学習などを関連させて関連単元を組み、書写で学習した内容を生かし、目的や相手を意識して字の大きさや太さなど考えて書くようにした。特別活動では、ひとり暮らしのお年寄りへの絵手紙、お楽しみ会のビンゴカード作り、社会科では新聞作りなどを行った。お楽しみ会に向けてのビンゴカード作りでは、「はらい」のある漢字を集めたビンゴカードを作るというめあてで活動することで、いろいろな種類の「はらい」を知り、「はらい」を意識して書くことができ、児童は意欲的に取り組んでいた。



〈3年学活
お年寄りへの絵手紙〉



〈3年学活
お楽しみ会のビンゴカード〉



〈4年社会
浄化センター新聞〉

② 日常化

書写の時間に学習した内容や、「とめやはねに気を付けて書こう」など整った字を書くためのポイントを随時掲示したり、漢字練習ノートに気をつけるめあてを書いたり、板書を視写する際に声掛けをしたりして書写以外の時間にも整った字を書くことができるよう意識化を図った。また、教材提示装置を活用し、めあてを意識して書いている児童のノートを紹介したり、意識する前と後に書いた連絡帳やノートなどの文字を自分自身で比べてみたりすることで、意識が持続するようにした。

また、国語科で学習した漢字の書き方歌や俳句・川柳などの掲示物作ったり、水泳指導や英語活動、田植えなどでお世話になった方にお礼の手紙を書いたりするときにも、書写で学習したことを生かして書くことができるように声掛けをしている。



〈3年国語 漢字の書き方歌〉



〈4年国語 俳句・川柳〉

中学年の成果と課題

(1) 基礎・基本の重視

- ・筆記用具の持ち方、姿勢、筆順などに対する意識が高まってきた。しかし、声掛けをするとよくなるが、他のことに意識が向くとくずれやすくなる児童が多いので、継続して指導していく。家庭にも呼び掛け、いつでもどこでも正しい姿勢や持ち方で書字活動ができるようにしていきたい。
- ・毛筆の使用回数は少ないので、筆の持ち方や筆使いの定着が困難である。そこで、教室内に「水書用紙の練習コーナー」を常設しておき、いつでも筆を持って練習できるようにし、毛筆に慣れるようにしている。
- ・毛筆学習は、基本技能の習得のための学習であること、硬筆による書写の能力の基礎を育てるということを教師自身が意識することができた。今後も、毛筆・硬筆の関連学習を意図的・計画的に行っていききたい。また、指導者が文字を大切にすることの態度が無言のうちに児童に影響していくので、普段から意識して取り組みたい。

(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

- ・学習過程が教師にも児童にもわかり、見通しをもって取り組むことができるようになった。
- ・学習カードや色カード、ネームプレートなどを用いたり、手本に直接めあてを書いたりすることで、児童が自分のめあてを確認し、それを意識して取り組むことができた。めあてを視覚的に提示する工夫により、児童本人だけでなく、教師や他の児童もそのめあてを確認しやすくなり、教師の評価や相互評価に生かすこともできた。
- ・筆使いを理解させたり、書く意欲を高めたりするために、視聴覚機器を活用することは有効であった。
- ・練習コーナーでは、児童がそれぞれの目的に応じて、追求する場を選ぶことができるようになってきた。今後も課題解決に有効な練習方法の研究をしていきたい。
- ・課題解決的な学習で展開する場合、どうしても時間が不足しがちである。練習時間が確保できるようにするために、どの学習活動に時間をかけたらよいかを考え、時間の配分を十分検討していきたい。

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

- ・上手・下手という評価でなく友達や自分の伸びやよさに気付くことができるようになり、文字を通して友達のがんばりを見付けようとする態度が育ちつつある。
- ・友達と交互にまとめ書きをすることにより、書いている途中の様子を互いに見るこ

とができ、友達のめあてを確認しながら、よさを見付けることができた。

- ・教師の指導中の観察による評価は、座席表を使って行った。指導後は提出物によって評価を行い、学習カードに教師のひと言を書くことで、次時や生活に生かす評価をすることができた。
- ・自己評価をしながら主体的に取り組むことができる学習カードの作成や、相互評価が短時間できる方法をさらに研究していきたい。(①毛筆と硬筆の関連を図ったもの ②単元の指導時間に合わせたもの ③評価の観点や各自のめあてを示し選択できるようにしたものなど)
- ・学び合いで、お互いに教え合って高め合うことができるようにするために、他教科など学習活動全体においても自分の思いや考えをしっかりと言葉で表現できるような学習活動の時間を確保していきたい。

(4) 生活に生かす工夫

- ・日常における書字活動の際、教師が意識して声掛けをするようになり、児童も点画などに気を付けて整った字を書こうと意識することが増えた。
- ・お礼の手紙や新聞作りなどでは、目的意識をもって、書写の時間に学んだことを生かして書くことができてきた。今後も、生活に生かすことができるように他教科などとの関連を図りたい。

実践事例（第3学年）

第3学年1組 国語科書写学習指導案

平成22年10月13日（水）

1 題材 はらいの筆使い「大」

2 目標

- 正しい「払い」の筆使いをもとに自分のめあてを見付け、めあてに合った練習方法を選び、進んで解決しようとする。
- 左右の「払い」の筆使いの違いを理解し、筆圧に気を付けて書いたり、「左払い」の方向に注意して、正しく書いたりすることができる。
- 自己評価や相互評価を行い、自分や友達の伸びを見付け合うことができる。
- 「払い」を含む漢字を使って、ビンゴカードを作ることができる。

3 指導計画（全3時間）

第1時 「大」の左右の「払い」の筆使いの違いを理解し、毛筆で自分のめあてをもって練習する。

第2時 自分のめあてに合った練習方法を選び、毛筆で形を整えて書く。

第3時 毛筆で学習したことを生かして、「払い」を含む漢字を硬筆で書く。（本時）

4 指導上の立場

- 本題材は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]（2）ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと」を受けて設定されている。本題材では、これまでの硬筆での学習を生かすと共に、毛筆での姿勢・筆の持ち方・筆使いを基礎にし、「払い」の筆使いや筆圧、方向に注意して書くことがねらいである。中心教材「大」は、2種類の払いから成っている。左払いは徐々に筆圧を弱めていきながら払い、右払いは徐々に筆圧を加えていき、一度筆を止めてから力を抜きながら払う。中心教材を通して児童は左右の「払い」の違いを理解し、既習事項を学び直しその定着を図るのに適した題材である。
- 本学級の児童は、毛筆の学習を楽しみにしており、毎時間意欲的に取り組んでいる。また、書写に関する意識調査でも、「文字を上手に書きたい」と願っている児童が多い。児童は、これまでに毛筆を使用して「横画」「縦画」「点」「折れ」の筆使いについて学習してきている。左右の「払い」については、1・2学年の時に硬筆で基本的な学習をしているが、普段使っているノートなどに書かれている漢字やひらがなを見ても、はらう方向が正しくなかったり、右払いを止めていたりするなど、「払い」を意識せず書いている児童が多い。また、正しい姿勢や用具の持ち方をしている児童が少ないので、繰り返し指導する必要がある。
- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自らのめあてをもち、上達した喜びを味わう書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・基礎・基本については、正しい「払い」の筆使いのポイントが理解できるように、デジタルコンテンツや水書板による教師の筆使いを見せ、左右の「払い」の書き方の違いに気付かせたり、水書用紙を用いて筆圧の加減をつかませたりしたい。また、姿勢図を使って姿勢の確認をしたり鉛筆の「矯正用具」を使用するように声かけをしたりすることにより、「正しい姿勢や持ち方」を意識して書字活動ができるようにする。
 - ・「払い」のポイントを掲示し、自分の取り組みたいめあての位置にネームプレートを貼り、お互いのめあてを明確にすることにより、友だちと学び合いが意欲的にできるようにしたい。
 - ・評価については、まとめ書きをした後、めあてに沿って自己評価をする。ペアやグループでお互いの作品を見合う相互評価の場を設けることにより、自分の伸びを知ったり友達のがんばりを認めたりすることができる。上達した喜びを味わうことができるようにしたい。
 - ・終末にビンゴカード作りを設定することで、毛筆で学習してきた知識・技能を生かして実際の生活で使いようとする意識を高め、日常の書く活動へと広げていきたい。

5 本時案（第3時）

目 標	○毛筆で学習したことを生かして、払いのある漢字を硬筆で字形を整えて書くことができる。 ○自分のめあてを決めて練習し、進んでビンゴカードを作ることができる。											
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援 個への対応（◆）評価（◇）	準備物									
1 学習のめあてをもつ。 （１）前時の学習を想起する。 ・ちがいのかくにんができたよ。 （２）毛筆で水書用紙に書く。 ・力の入れぐあいが分かった。 （３）学習内容を知る ・早く作りたいなあ。 ・楽しみだなあ。		・前時の学習内容「左右の払いの違い」について復習し、水書板を使って「払い」の筆使いの違いを再確認する。 ・一人一人水書用紙に書くことにより、「払い」の筆圧の加減が実感できるようにし、本時の学習内容を知らせる。 ・自分の書いたカードを使ってビンゴ大会をしようと投げかけることにより、目的意識をもって取り組むことができるようにする。	拡大手本 水書板 水書用紙セット									
左右のはらいに気を付けてビンゴカードを作ろう。 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>大</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>						大					・ビンゴカードの作り方を説明した後、実際に作って見せることにより、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ・既習の漢字の中から、左右の「払い」を含む漢字20字を一覧表にしたものを配布し、「払い」を探して、ビンゴに使う漢字を8字選んでカードに書くように指示する。 ・カードの中心には「大」を書き、選んだ漢字は好きな場所に書いてよいことを伝える。 ・「正しい姿勢や鉛筆の持ち方」を確認し、鉛筆の持ち方に課題のある児童へは矯正用具を使用するように指示する。 ・毛筆で学習した「払い」の筆使いを用いて書くことを再確認し、硬筆における自分のめあてを決めて取り組むように声を掛ける。 ・左払いの長さや方向が違う漢字を取り上げることにより、組み立て方によって変化することに気付くようにする。 ・手本や既習事項をもとに、めあてにしたいところに赤鉛筆で印を付け、気を付けたいことをメモして、めあての欄にどのように書くのか記入するように声をかける。 ◆めあてがもちにくい児童には、払いの確認をしたり手本と比べるように促したりすることにより、めあてがもてるようにする。	漢字表 ビンゴ用カード1（めあて・振り返りの欄付）
	大											
（４）選んだ8字の試し書きをする。 												

3 まとめをする。 (1) まとめ書きをする。 (2) 試し書きとまとめ書きを比べて、振り返りをする。 ・左はらいの方向がじょうずに書けた。 ・右はらいには自信がついた。 ・ノートを書くときにも、はらいに気をつけよう。 ・ますの中にきちんと書けた。 ・ビンゴ大会が楽しみな。 ・もう一まい作りたいな。	・自分のめあてを確認し、意識して書くことができるようにする。 ・試し書きとまとめ書きを比べて、めあてが達成できているかどうかを自己評価する。また、毛筆での学習を基に書けているか、グループでビンゴカードを見せ合い、児童相互の学び合いができるようにする。 ◇毛筆で学習したことを生かして、払いのある漢字を硬筆で字形を整えて書くことができています。 ・本時の学習で、分かったことや実際の書字活動で気を付けたいことを振り返るようにする。 ・完成したビンゴカードを使って、学級活動の時間にビンゴ大会をすることを確認し、達成感を味わうことができるようにする。	ビンゴカード2 (カラー)
--	--	----------------------

6 本題材の反省と考察

○ つかむ活動

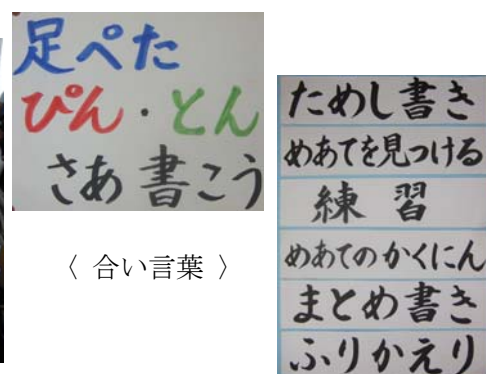
- ・姿勢や筆の持ち方を確認して、「左右の払い」の筆圧の加減を一人一人実感させるために、水書用紙を使って書かせた。左右の払いの違いを確認した後、本時は毛筆で学習したことを硬筆に生かす時間であることを確認することができた。



<教師の範書>

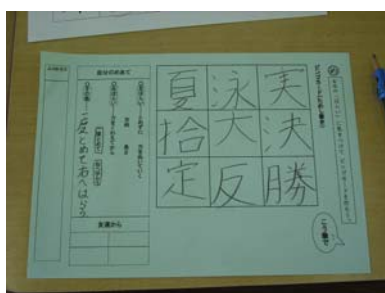


<水書用紙で>



<学習の流れ>

ビンゴカードは、国語の「へんやつくり」の学習で作った経験がある。今回は、同じ「へんやつくり」の漢字を探して書くのではなく、左右の払いの筆圧に気を付けて書くことであつたが、「作ったカードを使ってビンゴ大会をしよう。」ということにしたので、意欲的に取り組むことができた。自分のめあてを決める段階では、漢字一覧表から8文字選択して試し書きをするのに時間がかかり過ぎたが、手本と試し書きを比べて、短時間にめあてを決めることができるように、ポイントを書いたワークシートにしるしを付けるようにした。しかし、なかなか決められない児童もいた。試し書きの「払い」の部分にしるしを付けて比べさせれば、より分かりやすかったと思う。



○ すすめる活動

- ・ビンゴカードと同じマスの大きさの一文字の練習用紙を20文字分用意したが、一文字の練習が終わるごとに、用紙を取りに行くことになり、練習時間の確保が少なくなった。文字は少し小さめになるが、一枚で20文字全部の練習ができるような練習用紙にするなど練習用紙の工夫をして、練習時間の確保をすることが課題である。
- ・漢字の誤字や筆順の間違いをする児童への支援が十分にできなかった。日常の書く活動から、つまずきそうな児童への声掛けや練習用紙の工夫をしていきたい。



<練習用紙>

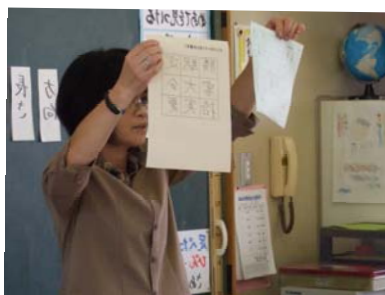


<払いに気を付けて>



○ 確かめる活動

- ・まとめ書きは、色付きの用紙を用意したことにより、多くの児童が、気持ちを新たに書くことができた。自己評価やビンゴカードを見せ合い、お互いに進歩を認め合うために、グループでの児童相互の学び合いができるように計画していたが、時間不足のため十分できなかった。全体の場で、よさを認め合うために試し書きとまとめ書きを黒板へ掲示したが、教材提示装置を使えばより効果的であった。



<ビンゴカードができたよ>

○ 広げる活動

- ・この時間に作成したビンゴカードは、国語の学習で作成したビンゴカードと合わせて、お楽しみ会(ニコニコクリスマス会)の中でビンゴゲームを行った。自分たちが作ったカードだったので、児童も熱が入り、ゲームも盛り上がり楽しむことができた。子どもたちの中から、「また作ろうよ。」という声もあがり「書写タイム」の時間に作るようになった。目的意識をもって取り組むことは、目的が達成されたとき意欲がわき有効であると感じた。

実践事例（第3学年）

第3学年2組 国語科書写学習指導案

平成23年7月13日（水）

1 単元名 はらいの筆使い「人」

2 目 標

- 自分のめあてを決め、進んで学習に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
- 左右の「はらい」の筆使いの違いを理解し、筆圧や「はらい」の方向に気を付けて字形を整えて書くことができる。（知識・理解、技能）
- めあてに対する自己評価や相互評価を行い、自分や友達の上達に気付くことができる。（思考・判断）
- 「はらい」のある漢字を探し、筆圧と「はらい」の方向を意識しながら言葉作りをすることができる。（日常化）

3 指導計画（全3時間）

- 第1時 「人」の左右の「はらい」の筆使いの違いを理解し、毛筆で練習する。（本時）
- 第2時 自分のめあてに合った練習方法を選び、毛筆で字形を整えて書く。
- 第3時 毛筆で学習したことを生かして、「はらい」を含む漢字を硬筆で書く。

4 指導上の立場

- 本単元は、第3学年及び第4学年の内容「[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]（2）ウ点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定されている。本題材では、既習事項にも注意して、左右の「はらい」の筆使いの違いを理解し、筆圧、方向に注意して書くことがねらいである。中心教材「人」は、2種類のはらいから成っている。左はらいは徐々に筆圧を弱めていきながらはらい、右はらいは徐々に筆圧を加えていき、一度筆を止めてから力を抜きながらはらう。中心教材を通して児童は左右の「はらい」の違いを理解し、既習事項を学び直しその定着を図るのに適した単元であると考ええる。
- 本学級の児童は、第3学年から始まった毛筆について、多くの児童が楽しいと感じ、意欲的に取り組んでいる。また、文字を上手に書きたいと願っている児童がほとんどである。児童はこれまで、「横画」、「縦画」の筆使いについて学習してきた。左右の「はらい」については、1・2学年の時に硬筆で基本的な学習をしているが、普段使っているノートなどに書かれている漢字やひらがなを見ても、はらう方向が正しくなかったり、右はらいを止めていたりするなど、「はらい」を意識せず書いている児童が多い。また、正しい姿勢や筆の持ち方をしている児童が少ないので、繰り返し指導する必要がある。
- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成－自ら学び、生活に生かす書写学習－」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・姿勢や筆の持ち方などを掲示物で確認することにより、正しい姿勢や筆の持ち方を意識して学習に取り組めるようにしたい。また、動画コンテンツや水書板による教師の筆使いを見せ、左右の「はらい」の書き方の違いに気付かせたり、水書用紙を用いて筆圧の加減をつかませたりしたい。
 - ・個人のめあてをもつ際に、色カードを用いることで、めあてを意識して練習することができるようにしたい。また、まとめの際にもカードを活用し、めあてに沿った相互評価や自己評価をすることができるようにする。
 - ・まとめ書きは隣同士で見合うようにし、よかったところを伝え合うことで相互評価をし、お互いのがんばりを認め合うことができるようにする。
 - ・第3時で「はらい」のある漢字を練習することにより、今まで何気なく書いていた「はらい」を意識して書くことができるようにし、日常生活に生かしていけるようにしていきたい。

5 本時案（第1時）

目 標	○左右の「はらい」の筆使いの違いを理解して、「人」を書くことができる。 ○自分のめあてを決め、進んで練習することができる。		
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援 個への対応（◆） 評価（◇）	準備物
1 学習のめあてをもつ。 （１）試し書きをする。 ・「はらい」が難しいな。		・ 掲示物により姿勢、筆の持ち方を確認し、意識して学習に取り組むことができるようにする。 ・ 本時は「人」を学習することを知らせ、試し書きをするように伝える。 ・ 試し書きと手本を比べ、難しかったところを話し合うことで、課題を見つけることができるようにする。	姿勢図 筆の持ち方を示した図 手本
「はらい」の筆づかいに気をつけて書こう。			
（２）個人のめあてをもつ。 ・ 筆圧に気を付けよう。 ・ 穂先の向きに気を付けよう ・ 一度止めてからはらうようにしよう。		・ 動画コンテンツを利用し、左右の「はらい」のちがいに気付くことができるようにする。 左はらい ①始筆は斜めにトン。 ②穂先は左側を通る。 ③だんだん力をぬく。 ④穂先をそろえるようにゆっくりはらう。 右はらい ①始筆は小さく。（弱い筆圧） ②穂先は上を通る。 ③だんだん力を入れる。 ④一度止めて、筆圧を弱くして穂先をそろえるようにしてゆっくり右にはらう。 ・ 確認したポイントは板書しておき、児童が個人のめあてをもつ時の参考になるようにする。 ・ 自分のめあてを選び、色カードで示すことで、めあてを意識して練習に取り組むことができるようにする。 ①始筆 ②穂先の向き ③筆圧 ④止めてはらう	動画コンテンツ 色カード
2 練習する。 ・ めあてに気をつけて書こう。 ・ めあてに合った練習用紙はどれかな。		・ 練習用紙や場所の説明をし、自分のめあてに合わせて練習できるようにする。 ①始筆の位置が分かる骨字の用紙 ②穂先の位置が分かる練習の場 ③右はらい・左はらいのかご字・骨字の用紙 ④右はらいのかご字・骨字の用紙 ・ 机間指導により、上手に書けたり、がんばっている児童を称揚することで、意欲の持続を図る。 ◆練習方法がなかなか選べない児童には、めあてを確認し、めあてに合った用紙はどれかを助言する。 ◆筆使いが難しい児童には、筆を持って一緒に書くようにする。 ◇自分のめあてを決め、進んで練習している。（関/観察）	練習用紙
3 まとめをする。 ・ 「はらい」が上手に書けた。 ・ 試し書きよりもうまく書けたな。		・ 個人のめあてを確認しながら空書きをした後、まとめ書きをするように指示する。 ・ 隣の児童とまとめ書きをしているところを見合うようにし、互いによかったところを伝え合うことで相互評価を行い、自分や友達の上達に気付くことができるようにする。 ・ 色カードにマークを書くことで自己評価を行う。 ◇左右の「はらい」の筆使いの違いを理解して「人」を書くことができている。（知/まとめ書き）	色カード
4 次時の学習を知る。		・ 次時は「人」の字形を整えてまとめ書きをすることを伝え、次時への意欲がもてるようにする。 ・ 片付けをする。	

6 本単元の反省と課題

○ つかむ活動

個人のめあては、自分の試し書きを見て、「ここがもっと上手になりたい。」と思ったところに赤鉛筆で丸をし、それをもとに4つのポイントの中から選ぶようにした。めあてを色別のカードにし、机の上に置くことで、一目でめあてを把握することができ、児童は、めあて意識を持続することができた。



左右の「はらい」の筆使いの違いに気付かせるために、動画コンテンツを利用したが、筆圧や穂先の通り道などを理解するのに大変役立った。また、個人のめあてカードの色に合わせてポイントを板書し、練習の際に生かせるようにした。

本時の目標は「はらい」の筆使いの理解なので、「つかむ活動」の時間がどうしても長くなってしまった。さらに時間短縮の工夫をし、練習時間をしっかりと確保するようにしていきたい。

○ すすめる活動

練習用紙を入れるかごの色を、色カードの色に合わせたことで、児童は自分のめあてにあった練習用紙を選ぶことができ、練習にも意欲的に取り組んでいた。

穂先の位置を練習するために、水をつけた筆の穂先に墨液をつけて、濃淡で穂先の位置が分かるようにした。書写を習い始めたばかりの3年生にとっては、手軽にできる方法でよかった。児童が筆の扱いになれてきたら、薄墨をつけた筆の穂先に朱液をつける方法も行いたい。



〈練習用紙を選んで・・・〉

本時の練習では、右はらいの筆使いが一番難しく、筆圧の1・2・3を意識するあまり、三つのこぶになっている児童もいた。数名の児童は、教師が筆を持って一緒に書き、筆圧の加減を体得できるようにした。徐々に力を入れたり、スムーズに筆圧を変えることが難しいので、本時で見付けた個々の課題を次時の指導に生かし、繰り返し練習させていきたい。

○ 確かめる活動

まとめ書きをしているところを隣同士で見合うようにして相互評価をしたが、色カードを見てお互いのめあてを確認しながら見合うことができていた。児童は、上手になったところやがんばりなど、互いのよさを伝え合い、自分や友達の上達に気付くことができた。また、「ここをこうしたらいいよ。」とアドバイスをしている児童もいて、次時への課題へとつながった。

自己評価は、色カードにマークや感想を書くことで行ったが、自分のめあてを明確に意識して評価できることと、短時間で書けるという点ではよかった。今後は、学習カードに書いていく方法も順次取り入れていきたい。

色カードは、個々のめあてを自分が意識するだけではなく、相互評価をする友達や机間指導をする教師もそれを一目で把握することができ、「つかむ」「すすめる」「確かめる」それぞれの活動で活用することができ、有効だった。



〈試し書き→まとめ書き、色カード〉



〈止めてはらうのが上手になったね・・・〉

実践事例（第4学年）

第4学年1組 国語科書写学習指導案

平成23年6月22日（水） 第5校時

1 単元名 点画のつき方『名作』

2 目 標

- 自分のめあてをもち、意欲的に書くことができる。（関心・意欲・態度）
- 点画の正しい付き方や付く位置を理解して書くことができる。（知識・理解・技能）
- 自分や友達のまとめ書きを見て、よくなったところを見付けることができる。（思考・判断）

3 指導計画（全3時間）

- 第1時 点画の付き方や付く位置について理解するして書く。
- 第2時 点画の正しい付き方や付く位置を正しく理解して書く。（本時）
- 第3時 点画の付き方や付く位置を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。

4 指導上の立場

- 第3学年及び第4学年での書写の指導事項に「文字の組み立て方に注意して、文字の形を整えて書くことができる。」があげられている。
本単元は、第2学年の硬筆学習「画の付き方・交わり方」で学んだ事項である。毛筆で大きく書くことで、硬筆では見えにくい点画の付き方の習熟を図る。
「点画の付き方」の学習において主眼となるのは、点画が「付いているか、はなれているか」「どの位置に付いているか」である。「名」では「口」の部分の5画めと6画めの付き方、「作」では「つくり」部分の4画めと5画めの付く位置である。これらに気を付けて書くことにより、硬筆書写において常に付く位置や付き方を意識して書く力を養いたい。
- 第4学年全体の主たるねらいは、点画どおしの関係を考えることで、字形を整えて書くことにある。例示された硬筆教材において、点画の付き方や付く位置を説明できるようにすることにより言語力を育成していきたい。
- 本学級の児童は、毛筆の授業に意欲的に取り組んでいる。試し書きから自分のめあてを見付けて、一生懸命練習に取り組む児童が多い。前単元の『美』では「画と画との間に気を付けて書く」ことを目標として砂文字や水書用紙・かご字・骨字の練習用紙から自分のめあてに合った練習の場や練習用紙を選択して進んで練習することができた。しかし、練習過程で自分のめあてを忘れてしまう児童もいたので、常に自分のめあてに立ち返らせる必要がある。
また、「筆を立てひじを上げる」筆の持ち方が、書いているとしたいにひじが下がり、筆使いや筆圧がでにくくなっていたり、正しい鉛筆の持ち方やよい姿勢が十分定着していなかったりする児童が見られるので、学習中声掛けをして意識できるようにしている。
- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・基礎・基本では、筆の持ち方を教科書で理解させ、これまでの既習事項「画の付き方・交わり方」を確認して、筆圧に注意して書くことができるようにする。正しい筆使いのポイントが理解できるように、動画や教師の示範を見せる。また、鉛筆の正しい持ち方ができるように、鉛筆の矯正用具を使用するように声掛けをして、正しい持ち方を常に意識付けるようにする。
 - ・めあてを見付けて教科書に書き込むことによりめあてを意識付けて練習に励むことができるようにする。
 - ・「確かめる」活動では、よいところを伝え合うことにより、言葉で伝え合う力を高めるようにする。また、互いの作品を見せ合うことにより、友達のよく書けているところを見付けて上達の喜びを味わうことができるようにする。

5 本時案（第2時）

目標			
○点画の正しい付き方や付く位置を理解して書くことができる。 ○試し書きとまとめ書きを比べ互いの伸びを認め合うことができる。			
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援 個への対応（◆）評価（◇）	準備物
1 学習のめあてをもつ。 （１）前時の学習を想起する。 （２）本時の学習を知る。		・前時の点画の付き方や付く位置について掲示し想起できるようにする。	鉛筆 練習用紙 動画コンテンツ 学習カード
点画のつき方に気をつけて正しく書こう		・目標が、「正しく書く」となっていることを確認する。 ・教材と前時の試し書きとを比べることにより付く位置や付き方の課題を見付けることができるようにする。 ・点画模型を操作して、基準を確かめることによりめあてがより明確になるようにする。	
（４）めあてを見付ける。 ・『作』の二画め・四画めの付く位置は「はらい」の中心よりやや下へ浅く付く。 ・付く位置に気を付ける。 『作』のつくり部分では五画めは浅く付く。 ・六・七画めは深く付く。 ・浅い付き方や深い付き方があるな。 ・五画めは四画めの左寄りに付く。 ・筆圧に注意しよう。		①『作』の二画め・四画めの付く位置は「はらい」の中心よりやや下へ浅く付く。 ②『作』のつくり部分の付き方 ・五画めは浅く付く。 ・六七画めは深く付く。 ・五画めは四画めの左寄りに付く。	
2 練習する。 ・めあてに合った練習用紙はどれかな。 ・何も書いていない用紙で練習したらどうなるかな。		・試し書きを見ながら画の付き方がどのようになっているか確かめ自分のめあてを決める。 ・練習用紙や練習の仕方について説明し、自分の課題に合った練習方法を選択して練習できるようにする。 ①練習用紙 ・点画の分かるかご字の用紙 ・始筆の位置が分かる用紙 ・文字の外形と中心のある用紙 ②分解文字 ③水書用紙 ◆練習方法がなかなか選べない児童には、めあてを確認し、用紙や場の選び方を助言する。 ・動画で筆使いを確かめることができるようにする。 ・練習用紙等で付き方や付く位置を確かめながら練習した後自分の半紙で練習するように指示する。 ・上手になったところやよい姿勢の児童を称揚することで、意欲の持続を図る。 ◇自分の課題にあった練習方法を選択し、進んで練習することができる。 ・課題を再確認することにより、画の付き方や付く位置に気を付けて、正しく書こうとする気持ちが再度もてるようにする。 ・試し書きとまとめ書きを比べることにより、めあてに沿ってできた所を確認することができるようにする。 ・互いの作品を見せ合うことにより、友達の成果が分かることを伝え合い、上達の喜びを味わうことができるようにする。 ◇自分や友達の書いた文字で画の付き方や付く位置の上達したところを見付けることができる。	
3 まとめをする。 （１）まとめ書きをする。 毛筆と硬筆 （２）試し書きとまとめ書きとを比較する。		・次時は、硬筆で点画の付き方や付く位置を確かめることを伝え、次時への意欲がもてるようにする。 ・片付けをする。	
4 次の学習を知る。			

6 本単元の反省と課題

○ **つかむ活動**

前時の試し書きをもとに児童がもつであろうと思うめあてを予想していたが、こちらが予想していためあてとは違うめあてを考えていた児童が多くいた。児童一人一人に声掛けをして本時のねらいに合っためあてがもてるように助言ができればよかったのだが、これはとても難しいことだと痛感している。児童の思いと教師がねらうめあてにずれがあり、試し書きからいかに本時のめあてに合った自分のめあてを見付けさせるかが課題である。



〈自分のめあてをどれにするか決める〉



〈手本に自分のめあてを書く〉

○ **すすめる**

練習用紙にめあての番号を書いていたので、どの用紙で練習したらよいか分かり、進んで練習できた。

分解文字を操作していた児童は、他の児童といっしょに「もっと上にして深く付くように。」「左に寄せて。」と互いに声を掛け合って付き方を考えていたのがよかった。この練習の場では、一人でするよりも何人かで意見を出し合いながら操作することが効果的だったと思った。

水書用紙の練習では、水書用紙にめあてにそった練習ができるように部分を印刷しておいた。これは、点画の付く位置がはっきり分かるのでよかった。しかし、印刷したものの数に限りがあるので、一度に多くの児童が練習することができなかった。印刷していない水書用紙での練習では、中心線があるものや二文字書けるように横線を入れたものを用意したが、はっきりめあてをもって練習しないとただ書いて練習したというものになってしまいやすかった。

めあてに合った練習をした後、自分の半紙で意識しながら練習することで、自分の上達したところや課題を確認することができるので、この時間を確保することは必要だと感じた。



〈水書用紙で〉



〈自分の半紙での練習〉

○ **確かめる**

試し書きとまとめ書きをめあてをもとに比べて自己評価をしたり、友達に評価してもらったりした。「アドバイスしてもらえてよかった。」という児童の喜びの声が聞かれ、互いに評価し合うのは有効であると思った。早くまとめ書きができた児童は、隣の児童が書いているのをじっと見るという書く過程を大事にする姿が見られた。

めあてに沿った評価がなかなかできにくく、「字の形が整っている」「中心がとれている」「払いが上手にできている」など、作品全体を見た評価が多かった。自分のめあてをはっきりと相手に伝えて評価してもらおうという互いに「伝え合う力」を養っていかなければならないと思った。

3 高学年の実践

めざす児童像

- (1) 目的に応じて筆記具を選び、字配りや書く速さを意識しながら書こうとする子ども
- (2) 自分の課題を見付けてめあてを決め、解決の見通しをもちながら、工夫して練習に取り組む子ども
- (3) めあてに対する自分や友達の伸びを認め合い、学んだことを次の学習に生かして書こうとする子ども
- (4) 書くことに楽しみや喜びを見付け、日頃の生活に生かして書こうとする子ども

研究の内容

(1) 基礎・基本の重視

低学年や中学年で学習したことに加えて、ある程度の文章量にも対応できるように硬筆で書く速さを意識して書いたり、筆記具を選択してその特徴を生かして書いたりすることにも取り組んだ。

- ・水書用紙や半紙に筆の穂先を使って円を何重にも書くことで、筆を立てて書くことや筆圧を体感することができるようにした。
- ・書き始めには正しい姿勢で一息おくことで、常に姿勢を意識して書くことができるようにした。
- ・用具を置く位置に気を付けたり、紙ばさみを用意したりすることで効率よく学習を進めることができるようにした。
- ・目的に応じて筆記具を選び、毛筆で学んだことを硬筆に生かすことも経験させた。係や児童会での掲示物、人権標語などを書く時に、はけ・大筆・小筆・色ペン・油性マーカー・筆ペン・フェルトペンといった堅さや太さの違う筆記具から自分で選んで書く活動を入れた。油性マーカーやペンを選んでいた児童が伸び伸び書きたい時や、大きく書きたい時には筆を選ぶことが増え、毛筆のよさを意識化することができた。
- ・丁寧に書いたらどれくらいの時間がかかるのか知り、書く速さを意識して書く活動を取り入れることにより、時と場合、目的に応じた速さで書くことができるようにした。



〈穂先を使って円を書く〉



〈速さを意識して書く〉

(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

○自分のめあてを明確につかませる工夫

・試し書きと手本を比べる

どの単元でも試し書きをし、手本と比べることにより自分の課題を明らかにし、自分のめあてをもつことができるようにした。

・操作文字の利用

文字の形や組み立て方に意識を向けさせるために、操作文字を利用した。また、いくつかの組み立て方の例を提示することで、課題をつかみやすくし、組み立て方のポイントを明確にした。



〈操作文字〉

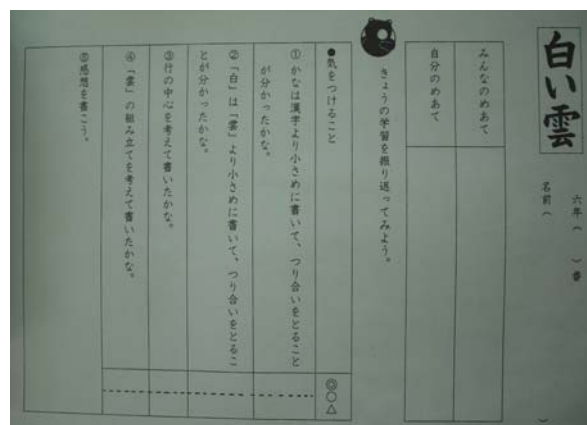


〈組み立て方のポイント〉

・学習カードの工夫

学習カードはみんなのめあてと自分のめあての両方書けるようにすることで、自分のめあてを意識しながら学習に取り組むことができるようにした。また、自分のめあてに沿った点について振り返ることができるように、学習内容のポイントを挙げた。

この学習カードは、できるだけ簡素化して一つの単元で一枚にまとめることで、自分のめあてを確認したり伸びも実感したりすることができるようにした。

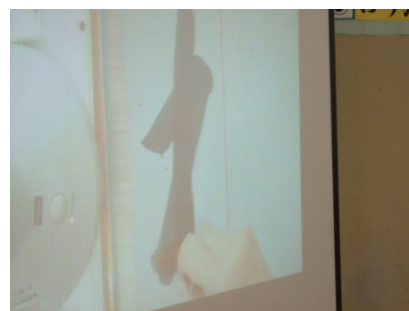


・範書

範書により課題をとらえやすくさせるとともに、筆使いや書き方のポイントを押さえ、どう書けばよいのか具体的にイメージできるようにした。特に、基準となる中心線や字形、字配りについては説明を加えながら行った。範書の際、児童に分かりやすく提示するため、水書板、教材提示装置、動画コンテンツなどを効果的に取り入れた。



〈範書の様子を教材提示装置で映す〉



○自分のめあてに合った練習方法の工夫

- ・数種類の練習用紙を用意し、自分の課題に合った用紙を選択できるようにした。
- ・自分のめあてに合った練習ができるように、自分で練習用紙を工夫して作った。

籠書き・・・・・・・・字の太さ

骨書き・・・・・・・・とめ、はね、はらい、筆脈

外形・・・・・・・・字形、中心線

穂先の位置・・・・始筆、終筆、穂先の向きや動き

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

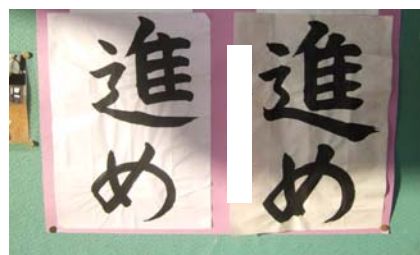
自分のめあてを常に意識して書くことにより、ポイントを絞って自己評価や相互評価ができるようにした。また、字が全体的に上手になったかどうかではなく自分のめあてが達成できたかどうかを見ていくことで上達した喜びを味わえるようにした。

【自己評価】

試し書きとまとめ書きを比較しながらシールを貼ったりワークシートに書き込んだりして自分のめあてとした部分が上達したか確かめることができるようにした。

試し書き

まとめ書き

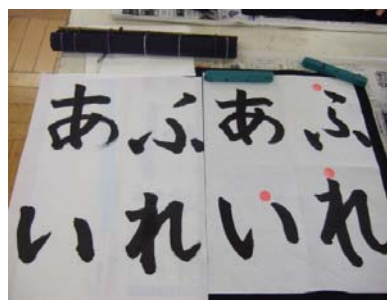


【相互評価】

友達とまとめ書きを見せ合い、めあてを意識しながら書けている部分について賞賛したりシールを貼って目で見てわかるようにしたりして（相互評価）、上達の喜びを味わうことができるようにした。そして、字を上手に書くことだけにこだわらず、めあてを達成することに充実感をもつことができるようにした。そうすることで、自己の課題を再発見することができたり、学んだことを生かして書こうとしたりすることができるようになった。



〈相互評価〉



〈自己評価〉



〈視聴覚教材を使っでの交流〉

【教師による評価】

練習時の教師の評価では、自分自身のめあてを意識して練習している児童を称揚し、字全体の美しさよりもめあてに合った練習をしていることを評価するようにした。また、学習カードへ、めあてに対してどのようにできているかを記入して児童に伝えることによって次時への意欲付けをした。

(4) 生活に生かす工夫

①教科等との関連（関連単元）

高学年では、毛筆に親しみをもち学んだことを日頃の生活に生かすために、学級活動で1年のめあてを一文字で表現したり、国語科で短歌や俳句などを毛筆で書いたりした。



〈6年学活 1年のめあて〉



〈6年国語 修学旅行の俳句〉

②日常化

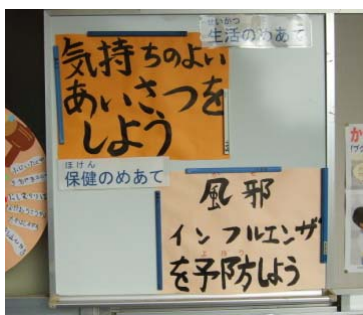
目的に応じて筆記具を選んで書いたり、字配りを考えて書いたりする活動を入れることで日常でも学習したことを生かして書くことができるようになってきた。また、漢字プリントに基本点画を示したり、硬筆から毛筆、毛筆から硬筆へと繰り返したりする中で正しく文字を書くことができるようになった。書く速さも、目的に応じて意識して書くようになってきている。



〈6年行事 運動会〉



〈6年行事 学芸会のテーマ〉



〈5・6年 児童会 月目標〉



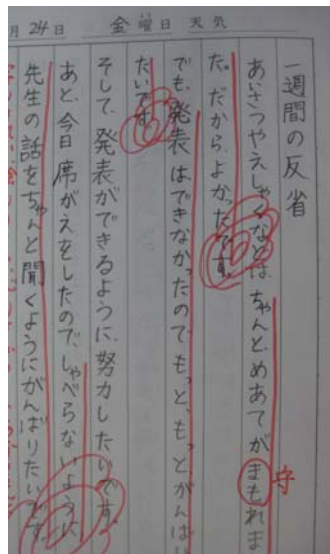
〈5年総合 国文祭〉



〈5年道徳 人権標語〉



〈5年総合 国文祭ポスター〉



〈6年 日記〉



〈6年社会 新聞〉

高学年の成果と課題

(1) 基礎・基本の重視

- ・教師の声掛けにより、「正しい姿勢」や「正しい筆記具の持ち方」を意識して書くことができるようになってきている。「正しく書く」ことについては、学習したことを日常生活の中で生かそうとする意識を育てることが大きな課題である。関連教科とのつながりを生かして指導を続けていかなければならない。
- ・総合的な学習の時間でお世話になった方へのお礼の手紙や、学校行事でのテーマ作成などと書写学習を関連させて指導することを通して、「書く速さ」や「配列」、「書く相手」などを意識させることができた。関連教科とのつながりを生かすことで、目的に応じた書き方を意識するようになってきている。

(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

- ・書写学習の流れを提示することで、今自分たちがどの活動をしているのか、次に何をすればよいのか、見通しをもって学習することができた。学習の流れが定着するとともに、どの子も落ち着いた雰囲気での学習することができている。
- ・中心課題を視覚的に示した分かりやすい板書を心がけることにより、導入の時間が短くなり、練習時間の確保ができるようになってきている。
- ・練習時間をしっかり確保することで、自分の課題に合った練習用紙を選んだり作ったりすることができるようになってきている。練習用紙の活用によって字形や配列を意識しながら学習することができた。しかし、適切な練習方法が選択できない児童もあり、TTをうまく活用しながら、教師が個人の課題に合わせた練習方法を提案するなどのきめ細やかな支援が必要である。

(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

- ・全体のめあてを基にしながら、試し書きと手本を比較して自分の課題を見付け、練習に取り組むことができた。めあてが達成できたかどうかを評価する時間をとることで、自分の成長を確かめたり友達の伸びを伝え合ったりすることができた。しかし、高学年になると作品を客観的に評価できるようになり、作品のできばえが学習の喜びと大きく関係してくる。毛筆を使用しての学習は、硬筆による書写能力の基礎を育てることが大きな目的ではあるが、筆使いの定着が困難な児童にできる喜びを体験させることは難しい。低学年からの系統的な指導により、基本的な技能を習得させていくことが重要である。
- ・自分のめあてを学習カードに書くことで、めあてに沿った自己評価ができた。また、友達のよくなったところを見付ける際にも、友達のめあてに合わせて評価ができるので、お互いの伸びを認め合うことができた。

(4) 生活に生かす工夫

- ・書写学習で学んだことを日常の生活に生かしていこうという意識が見え始め、児童会の月目標の掲示や、運動会や学芸会のテーマ作成などで字形や配列を意識して書こうとする様子が見られた。
- ・多様な筆記具に触れさせたり、目的に合ったものを自分で選ばせたりすることができるよう学習計画を立てた。そうすることで、目的に応じて筆記具を選んだり書く速さを意識したりする児童が増えてきた。
- ・毎週月曜日の朝、15分間実施している書写タイムを利用して、国語教材等の視写を行った。視写する文字数や書く時間を設定することで、ゆっくり書くことや速く書くことを調整できるように指導した。自分の字を書く速さと丁寧さの関係を知らることにより、普段の生活の中でよりよい書字活動ができると考えられる。

実践事例（第5学年）

第5学年 国語科書写学習指導案

平成22年10月13日（水）

1 題材 組み立て方（「によう」） 「進め」

2 目標

- 「進」の組み立てを考えて自分のめあてをもち、練習方法を選び進んで取り組むことができる。
- 「しんによう」の書き方と「によう」の組み立て方を理解し、既習事項にも注意して、「進め」を整えて書くことができる。
- めあてをもとに自己評価をしたり、友達の伸びを認め合ったりすることができる。

3 指導計画（全3時間）

- 第1時 書き順と「しんによう」の書き方や筆使いを理解し、既習事項に気を付けて練習する。
- 第2時 「によう」の組み立て方を理解し、「進」の字形を整えて書くために、自分のめあてを決めて練習する。（本時）
- 第3時 既習事項を意識してまとめが書きをし、他の漢字の組み立て方を学ぶ。

4 指導上の立場

- 高学年における書写の指導では、「文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと」「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「毛筆を使用して、字配りよく書くこと」がねらいである。本題材では、「しんによう」の筆使いを学習し、「によう」の組み立て方を理解することをねらいとしている。文字の組み立て方を学ぶことで字形の整え方を身に付け、整った文字を生活の場で書くことができる力を育てていきたい。
- 本学級の児童は、書写の時間に集中して学習に取り組むことができる児童が多い一方で、書写の学習に対して苦手意識をもっている児童も少なくない。児童は日常生活の中で、ノートなどの文字を正しく書こうとする意識はあるものの、「組み立て方を考えて書く」ということに対しては、常に意識して書いているとは言い難い。そこで、組み立て方ということに目を向けさせ、日常の書く活動に生かそうという意欲を育てていきたい。
- 本校の研究主題である「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成－自らのめあてをもち、上達した喜びを味わう書写学習－」に迫るために次のような学習の工夫を行う。
 - ・基礎・基本については、分解文字を用いて「しんによう」の書き方を理解したり、様々な組み立ての「進」を提示することで、整った「によう」の組み立て方を考えたりできるようにする。また、「しんによう」の指導にあたっては動画を利用することにより、穂先の弾力を生かして、リズムよく運筆できるようにしたい。
 - ・自分のめあてに沿った練習用紙やステップアップできる練習用紙を用意することで、主体的に学ぶ場を設定する。また、筆の動きを捉えた映像を見ることによって、いつでも筆の動きを確認できるようにしておく。
 - ・評価については、「しんによう」の書き方・「によう」の組み立て方のポイントについて、自分のめあてに沿った自己評価をしたり、友達のよいところを見付けたりすることによって、上達の喜びを味わうことができるようにしたい。

5 本時案 第2時

目 標	○「によう」の組み立て方を理解し、「進」を整えて書くことができる。 ○自分のめあてを決めて、進んで練習することができる。		
学習活動と予想される児童の反応	教師の支援	個への対応（◆） 評価（◇）	準備物
	T 1	T 2	
1 めあてをもつ。 ・バランスが変だからおかしいよ。 ・十画目と「隹」の間隔がポイントかな。 ・「しんによう」のはらいの位置は「隹」の右端あたりからだな。	・分解文字を使用して、前時に学習した「しんによう」の書き方を確認する。 ・様々な組み立ての「進」を提示し、組み立て方を考えながら書くことを知らせる。 組み立て方に注意して書こう。 ・分解文字を使って「によう」の組み立てのポイントを話し合う中で、「によう」の組み立てのポイントを考え、めあてを絞り込むようにする。 ・九画目の上を空ける。 ・十画目と「隹」の間隔のあき方に気を付けて書く。 ・「しんによう」のはらいの上を空けて書く。 ・「隹」の右端から払い始める。 ・正しい組み立て方で整った字を書くことができるように、前時のまとめ書きを見て、自分のめあてを2つ決め、学習カードに書くことができるようにする。	・前時に用意した拡大手本を示すことによって、前時の内容を思い出すようにする。 ◆自分のめあてを見付けにくい児童には、手本との比べ方を助言するなど、個別指導する。	拡大手本 分解文字 学習カード
2 練習する。 ・自分のめあての箇所を意識して書くぞ。	・めあてに沿ったポイントが練習できるように、練習用紙を4種類用意する。 ・ステップアップした練習ができるように、4つのポイントが書かれた練習用紙を用意し、2つのめあてを意識して書くことができるようにする。 ・筆の動きを捉えた映像によって、筆使いを確認できるようにしておく。 ◆「しんによう」は、穂先の弾力を生かしてリズムよく運筆するように助言する。 ◆筆使いで困っている児童には、個別に支援や助言をする。		練習用紙
3 まとめをする。 ・「しんによう」と「隹」の組み立てが上手に書けた。 ・前回よりも「進め」が上達したよ。	・自分のめあてを再確認してから、まとめ書きをするように助言する。 ・前時のまとめ書きと比べ、お互いの上達ぶりやがんばりを認め合う場をつくり、次時への意欲がもてるようにするとともに、めあてに沿って伸びていたところを称揚し、充実感がもてるように配慮する。 ・学習カードに振り返りを記入することで、自分の変容に気付くことができるようにする。	・よくなったところが分かるように、上達が見られた児童の前時と本時のまとめ書きを教材提示装置で示すようにする。	動画コンテンツ 教材提示装置
4 次時の学習を知る。	◇「によう」の組み立て方を理解し、「進」を整えて書くことができる。 ・今までの学習を生かしてまとめ書きをすることを知る。		

6 本題材の反省と課題

○ つかむ活動

意図的に課題がつかみやすい「進」を提示することで、「しんにょう」と「隹」の組み立て方によって、整った字を書くことができることを確認することができた。また、児童が組み立て方のポイントに気付きやすいようにした4つの「進」を示したため、組み立て方という目的にあった課題を整理することができた。

間隔のあき方については、「少し下」や「ある程度」とう表現を使ったので、何か別の表現方法がないか模索する必要がある。

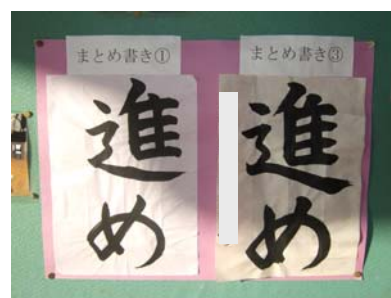
児童は、自分のめあてを前時のまとめ書きを見ながら、的確に決めることができていた。



○ すすめる活動

「しんにょう」を、リズムよく運筆することができるように範書を見ることで、穂先の弾力を生かして書くことを意識付けることができた。練習中には動画コンテンツを用意し、筆使いで困っている児童に見せたが、時間がかかってしまうため、教師が手を持って一緒に書くことが必要であった。

計画では、ステップアップした練習ができるように4つの練習用紙を用意するとしていたが、煩雑になるのを避けるため、全員に「進」だけ書かれた同じ練習用紙を配るようにした。それを下に敷いてなぞり書きをすることで、組み立て方のポイントをつかむことができていた。しかし、練習用紙を1つの使い方に限らず、自分のめあてに合うように半紙に練習用紙を作るなどの工夫をすれば、練習の幅が広がってよかったように思う。



○ 確かめる活動

児童は、自分のめあてとした部分を、前時のまとめ書きと本時のまとめ書きを見比べながら自己批評することができた。多くの児童が、組み立て方のポイントをつかんで書くことができていた。

また、班の中で友達の書いた作品を見て、めあてとした部分で上達したことを認め合う活動ができていた。



実践事例（第6学年）

第6学年 国語科書写学習指導案

平成22年7月12日（月）

1 題材 筆使いと字配り（ひらがな）「ふれあい」

2 目標

- ひらがなの筆使いと字配りを考えて自分のめあてをもち、めあてに合った練習方法を選び、進んで練習することができる。
- ひらがなの筆使いの特徴を理解し、行の中心に気を付けて、字配りよく書くことができる。
- めあてをもとに自己評価をしたり、友達の伸びを認め合ったりすることができる。

3 指導計画（全2時間）

- 第1時 「ふれあい」の筆使いと行の中心を知り、自分のめあてをもって練習する。（本時）
- 第2時 自分のめあてに合った方法を選んで練習し、字配りよく書く。

4 指導上の立場

- 第6学年での書写毛筆の指導事項に「点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「字配りよく書くこと」があげられている。
本題材は、ひらがなの筆使いの特徴を理解するとともに、「ふれあい」の行の中心を理解し、字配りよく書くことをねらいとしている。毛筆で「ふれあい」を試し書きすることで、始筆は軽く入り、丸みのある線で書く、そして筆脈が表れるように書くといったひらがなの筆使いの特徴を見付けやすいと考えられる。また、ひらがなのように中心がわかりにくい文字でも外形を手がかりに文字の中心をとらえ、行を整えて書くことを学習するのに適した題材である。
- 本学級の児童は、「文字を上手に書きたい」という願いをもっているが、書くことが面倒だと思っている児童も少なくない。日常生活では練習の成果が生かし切れず、字形の乱れや点画の誤りをよく見かける。また、6年生になって、書写の学習では全体のめあてを意識しながら試し書きと手本を比べて自分の課題を見付けるようにしているが、ポイントがずれていたり、文字の出来にこだわって意欲的に学習できなかつたりすることもある。また、集中して根気良く取り組むことが苦手な児童もあり、筆使いに注意しながら書くという意識は十分ではない。
- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身に付ける子供の育成—自らのめあてをもち、書く楽しさや上達の喜びを味わう書写学習—」に迫るために、次のように学習過程の工夫や評価の工夫を行う。
 - ・つかむ活動では、手本を見て試し書きしたものを動画コンテンツなどを参考に自己批評し、どこに着目すればよいか話し合うことでひらがなの筆使いを理解したり、補助線を引いて文字の中心を理解したりして、自分の課題を見つけやすくする。
 - ・すすめる活動では、児童一人一人が自分のめあてに合った練習用紙を選んで練習することで、主体的に学習できるようにしたい。その間教師は机間指導を行い、めあてを確認しながら個別指導し、基礎基本を徹底したい。
 - ・確かめる活動では、試し書きとまとめ書きを比較してシールを使って自己評価をすることで、自分の伸びを知ったり友達のがんばりを認めたりすることができ、成就感を味わうことができる。また、達成できなかっためあては、次時の学習のめあてとしてつなげていく。

5本時案（第1時）

目 標	ひらがなの筆使いと字配りを考えて自分のめあてをもち、進んで練習することができる。 ひらがなの筆使いの特徴を理解し、行の中心に気を付けて、字配りよく書くことができる。		
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評価内容	準備物
1 学習のめあてをもつ。	T₁本時の題材「ふれあい」を提示し、筆順を確認した後、試し書きをするように伝える。 T₁₂ 姿勢・筆の持ち方などに気を付けるよう促す。 T₁手本と試し書きとを比較し、自分自身の課題をつかみ、見通しをもって学習できるようにする。 T₁気付いたことを発表し合う中で、ひらがなの筆使いや行の中心に着目した発言を取りあげ、めあてを絞り込むようにする。 ・始筆は軽く入る。 ・丸みのある線で書く。 ・筆脈が表れるように書く。		手本 拡大手本
ひらがなの筆使いと行の中心に気を付けながら、書こう。			
2 練習をする。	T₁自分のめあてを決めてカードに書き、課題に合った練習方法を工夫するよう助言する。 T₂動画コンテンツを見ながら書き方のポイントを押さえ、どう書けばよいのか具体的にイメージできるようにする。 T₂4種類の練習用紙を用意し児童が自分に合った練習方法を選べるようにする。 T₁₂筆使いで困っている児童には手を添えて書いたり、課題に沿った練習ができていない児童には個別に助言する。 T₁₂めあてに沿って意欲的に取り組んでいる児童には、良くなっている点を具体的に称揚する。	自分のめあてに合った練習方法で練習している。	学習カード 動画コンテンツ 練習用紙 { かが字 骨字 穂先の位置 中心線 }
3 まとめをする。	T₁めあてを意識して、まとめ書きをするよう助言する。 T₁試し書きとまとめ書きを比較し、めあてに沿って自分の伸びた点にはシールを貼り、自己評価する。また友達の伸びやがんばりを認めあうことで成就感がもてるようにする。 T₁学習カードに振り返りを書く。	ひらがなの筆使いを理解し、行の中心に気を付けて書くことができる。	シール 教材提示装置

*全体のめあてにてらして一人一人が課題を見付け、そのめあてを意識しながら学習することができるような支援になっているか。

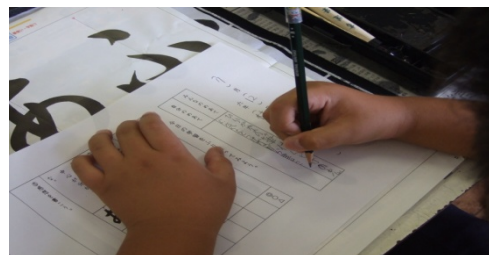
6 本題材の反省と課題

○ つかむ活動

試し書きを手本と比べながら自己批評し、どこに気を付けて書けばよいのか見付けたことを話し合うことで、ひらがなの筆使いや字配りについて理解し、児童一人一人が自分の課題を見付けてめあてを決めることができた。

ただ、話し合いからめあてを絞り込むことは、課題意識を維持しながら学習に取り組むうえでは有効であるが、時間がかかりすぎるので予めポイントを示しておくほうがよかった。

学習カードに全体のめあてと個人のめあての両方を書くことで、何を練習すればよいかしっかりつかんで取り組むことができた。



○ すすめる活動

練習の前に範書（または動画コンテンツ）を示すことで、児童が書き方のポイントを確認して取り組むことができた。また、数種類の練習用紙を用意し、めあてに合ったものを選ぶことができるようにしたのは良かった。今後は練習用紙以外の練習方法を考えたり、自分で練習用紙を作ったりしていくことも考えていきたい。さらに筆使いがつかめなくて困っている児童には教師が手を添えて一緒に書くことが必要だと感じた。



○ 確かめる活動

試し書きとまとめ書きを比較し、手本を参考に自分の伸びた点にはシールを貼る活動を取り入れたので、視覚的にとらえることができ自己評価しやすかった。また、グループでも話し合ったり、教材提示装置を使って全体に発表したりすることで、友達の伸びやがんばりを認め合うことにつながり、児童が成就感をもつことができた。ただ、めあてを忘れてしまったり、上手下手にとらわれていたりすることもあるので、めあてをいつも意識できるように視覚化していきたい。



4 特別支援学級の実践

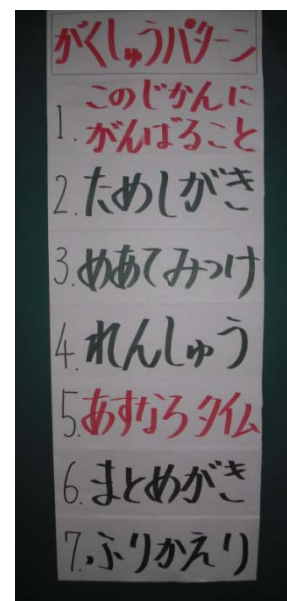
めざす児童像

知	ゆっくり丁寧に文字を書こうとする子ども
自・情	書くことに興味をもち、楽しんで書こうとする子ども

研究の内容

(1) 基礎・基本の重視

- ・姿勢や用具の持ち方・置き方については、教室に模範となる図を掲示し意識付けを図った。
- ・書いている間に姿勢が崩れてしまったり、用具の持ち方が変わってきたりするため、正しい姿勢の合い言葉を唱えたり個別に繰り返し声を掛けたりした。
- ・見通しをもち安心して学習に取り組めるように、学習過程をパターン化して提示した。



(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

○自分のめあてを明確につかませる工夫

- ・試し書きをした後、手本と比べて「よくできているところ」と「直したいところ」を自分で見付け、別々のシールを貼って視覚的に分かりやすくした。特に「直したいところ」を一つ決めて、自分のめあてをはっきりとさせることができた。
- ・「○画目をもう少し長く書く」というめあてをつかみやすくするために、モールを字の上に直接置いて比較することで、手本の字と自分の字の画の長さの違いに気付くことができた。
- ・自分でめあてを見付けることが難しい場合には、教師が児童の実態に合わせていくつかのめあてを提示し、その中から自分に合ったものを選んで取り組むことができるようにした。



○自分のめあてに合った練習方法の工夫

- ・なぞり書きを中心に、課題の字と各自のめあてに合わせた練習用紙を用意した。また、中心がずれたり字の大きさが乱れたりすることが多いため、マス目やリーダー線を書いた下敷きを使って書くようにした。



(3) 上達した喜びを味わえる評価の工夫

- ・シールなどを使って、自分や友達の頑張りを認め合う活動を取り入れた。その活動を通して、自分では気付かないことをほめてもらえた嬉しさや満足感が、「書くことが楽しい」という意識に結び付くのではないかと考えた。
- ・教師が授業の途中で気付いた一人一人の「良さ」や「頑張りを」をまとめの段階で必ず伝え、喜びを少しでも感じることができるようにした。



(4) 生活に生かす工夫

①教科等との関連

児童が興味をもち意欲的に学習に取り組むために、書写単独の授業だけではなく、生活単元的な学習や他教科と関連付けた授業を構成した。他教科と書写を関連付けた学習の中で基礎的な知識や技能を身に付けたり、これまでの経験を生かしてより楽しく取り組めたりするようになることを目指した。

②日常化

市内の他校の児童との連合行事や介護施設の方々との関わりが深く、行事の招待状を作ったりお礼の手紙を書いたりする機会が多い。その際には、読む人のことを考えながら丁寧に書くことを念頭に置いて、書く活動に取り組んでいる。

③書写環境

時季の様子を表す掲示物を身近にある色々な材料を使って作成し、教室の背面に掲示している。その際、タイトルや場面にあった言葉を、書写の学習を生かしながら、硬筆や毛筆で書き加えた。

また、いつでも自然に書写活動に取り組めるように、教室の一角に筆記用具や用紙を準備し、練習の場を設定した。



特別支援学級の成果と課題

【知的障害児学級】

- ・生活単元学習の中に書写活動を組み入れたことにより、何のために書くのかという目的意識を持ちやすく、意欲を持続させることにもつながった。特に、手紙や招待状などでは、相手が読みやすい字を書こうと心掛けたり間違いがないか見直したりする姿も見られるようになった。
- ・握力が弱いことや姿勢が崩れやすいことが原因で筆圧の調整がうまくできず、生き生きとした文字が書けないことがある。今後も継続的に図を提示したり言葉をかけたりしながら意識付けを図り、正しい姿勢や持ち方が定着するようにしたい。
- ・学年の違いだけでなく、集中する時間や興味関心の大きさなど個々の差が大きいため、自分のめあてを見付けたりお互いの良さを認めあったりする活動ができにくい。お互いが関わりをもちながら、なおかつ一人一人が充実感をもって授業に参加することができるよう工夫や支援の仕方を今後も考えていきたい。

【自閉・情緒障害児学級】

- ・ナンバリングによる学習パターンの提示により、1 単位時間の学習の流れが分かり、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。
- ・個々の実態や目的に合った準備物や相互評価の時間を設定したことで、児童の「できる」「やってみよう」という自信や意欲が増し、さらに頑張ったり次時に意欲をつなげたりすることができた。
- ・大きさや形、中心をそろえることなど文字への意識が高まり、学習ノートや連絡帳などを丁寧に書こうとする姿が見られるようになった。
- ・上手に書きたいという思いをもって取り組むあまり、思うように書けないことからいらしてしまふことがある。児童がいかに集中を持続することができるかを考え、充実感を味わいながら学習を進められるような学習過程の工夫や児童の実態や課題に合った用具を準備していく必要がある。

実践事例（特別支援学級・知）

くすのき学級 国語科書写学習指導案

平成23年1月21日（金）

1 題材 くすのきショップの看板や値札を作ろう

2 目標

- 自分のめあてをもち、喜んで書くことができる。
- めあてに合った用具を選び、読みやすい字を丁寧に書くことができる。
- お互いのがんばりを認め合うことができる。

3 指導計画（単元構想 全8時間）

自立活動（3）

第1時 「くすのきショップ」の計画を立てる。

第2・3時 お店を開くために必要なものを考え、準備する。

国語科書写（2）

第1時 文字の大きさや読みやすさに気を付けて練習し、看板や値札を作る。（本時）

第2時 お客さんに案内状を書く。

自立活動（3）

第1時 あいさつや受け答えなど、お客さんへの対応の仕方を練習する。

第2時 くすのきショップを開く。

第3時 くすのきショップでのやりとりや自分の活動を振り返る。

4 指導上の立場

- 本学級の書写指導では、「楽しく書写学習に取り組み、読みやすい字を丁寧に書くこと」を目標にしている。本題材では、これまで学習してきた「字の大きさに気をつけること」や「一画ずつ丁寧に」を生かしてお店に必要なものを作ることをねらいとしている。お店を開こうという一連の学習の中で看板や値札作りに取り組み「お客さん」をイメージすることによって、集中して学習したり人に伝えるための「読みやすい字」を意識したりすることができるのではないかと考えている。
- 本学級には、5年生の児童2名が在籍している。2名とも国語の学習が好きで、ひらがなの読み書きはほとんどできるが、促音や拗音の表記につまずいたり、字の大きさや中心線がそろわなかったりすることもしばしばある。同じ字を繰り返し練習することや自分の字からめあてを見付けるという学習活動は難しく、書写の学習に対して苦手意識を持っている。そのため、字を書くことが楽しいという経験を積み重ねることをねらいとして、書写の時間単独ではなく他教科と関連付けて書写指導を行うことも多い。

児 童	児 童 の 実 態
A 児	・気持ちが落ち着いているときは、漢字練習やプリントのなぞり書きに長時間集中して取り組む。 ・手紙や作文で自分の思いを表現することは苦手だが、例文を提示すれば長文であっても視写することができる。 ・字が小さめで、ゆっくり丁寧に書こうという意識が低い。 ・親指を前に出して筆記用具を持ったり、持つ位置が下過ぎたりする。
B 児	・漢字やかなの練習に喜んで取り組む。 ・短文ではあるが、思ったことを文章で表現することができる。 ・字が大きめで、枠の中に納めて書くことが難しい。 ・握力が弱いため、硬筆の字が薄くなったり筆が斜めに傾きすぎたりする。 ・親指を前に出して筆記用具を持つ。

○ 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自らのめあてをもち、上達した喜びを味わう書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。

- ・基礎・基本については、正しい姿勢の合い言葉や個別に繰り返し声掛けをすることにより意識付けを図り、正しい姿勢や筆記用具の持ち方を身に付けることができるようにする。
- ・めあてを自ら決めることは難しいと思われるので、教師がいくつかのめあてを提示し、その中から選ぶようにする。めあてが決まったらそばに一人一人のネームプレートを貼り、いつでも確認できるようにしておく。
- ・数種類の用具や字の大きさを整えるためのマス目の入った下敷きを準備し、自分のめあてや制作するものに合わせて使うことができるようにする。迷った時には教師と一緒に選ぶようにし、めあてに沿って活動できるよう支援する。また、ショップを開くという特別な場なので、お客さん側からの視点も念頭において、「読みやすい」「わかりやすい」という観点で、選ぶことができるようにする。
- ・活動の様子をデジタルカメラで記録しておき時間の終わりに紹介することで、お互いのがんばりに気付くことができるようにする。また、評価しあうことが難しいという実態から、教師から言葉で評価することにより、上達した喜びを少しでも感じることができるようにしたい。

5 本時案（第1時）

目 標	○自分のめあてをもち、楽しみながら書くことができる。 ○文字の大きさを考えて、丁寧に読みやすく書くことができる。		
	学習活動と 予想される児童の反応	教師の支援 個への支援（◆） A 児 B 児	評価（◇） 準備物
	1 学習のめあてをもつ。 (1) 前時の学習を想起する。 (2) 本時の学習を知る。 ・私の作る物は○○だ。	・前時までに話し合った準備物を一つずつ確認しながら板書し、今日の活動へ結び付けやすくする。 ・本時はお客さんに読みやすい丁寧な文字を書いて、準備物を作ることを知らせる。 ・本時で作る物と書く内容を確認し、一人ずつ一覧表にまとめる。	画用紙
	(3) じぶんのめあてをもつ。 ・ゆっくり丁寧に書いてみよう。 ・もっと大きく書こう。 2 作る。	お客さんに読みやすい字で、かん板やねふだを作ろう。 ・ポイントを提示し、その中から選んでめあてを決めることができるようにする。 ○大きい字で書く。 ○ていねいに書く。 ○字と字の間をあけて書く。 ・決めためあての横にネームプレートを貼り、いつでも確認できるようにしておく。 ・正しい姿勢を意識できるように、姿勢の合い言葉を確認する。 ・書く内容と順番をわかりやすくするため、一人ずつの 一覧表を準備しておき、できたところにはシールを貼 って確認できるようにする。 ・何枚かずつ書いた中で一番気に入ったものを後で選ぶ ことを知らせる。 ・いくつかの用具・用紙を用意しておき、作りたい物に 合わせて選ぶことができるようにする。 ・大きい用紙に書くときには、大きさがばらばらになる ことが予想されるので、いろいろな大きさの丸い紙を 用意しておき字の位置取りをすることで用紙にあった 字の大きさに気付くことができるようにする。 ・字が大きくなって用紙からはみだしたり中心がそろわ なかったりしないようにマス目や下線の入った下敷き を使いまっすぐに書くことができるようにする。	習字道具 絵の具 セット 筆ペン サインペン コピー用紙 画用紙 色画用紙 丸く切った 画用紙 下敷き
		◆一覧表を見ながら書くこ とで、見通しをもって活 動できるようにする。 ◆集中が切れたり気分が落 ち着かなかったりする ときには、少し離れた所で	◆一覧表を見ながら書くこ とで、カタカナや拗音・ 促音の表記に困らないよ うにする。 ◆ときどき「ゆっくり」と 声を掛け、書くスピード

	リラックスするよう声を掛ける。 ◆早くできたときには、他の準備物を作ってもよいことを知らせる。	が速くなりすぎないようにする。 ◆細かい作業が苦手なので必要に応じて教師が手伝う。 ◆背中が丸くなりやすいので、近くで声を掛けながら意識付けを図る。	
3 振り返る。	◇字の大きさに気を付けて、丁寧に書こうとしている。 ・できた作品を並べて見ながら、自分でがんばったことや友達のがんばったことを発表する。 ・作品の中で「大きく」「ていねいに」書けている所を話し合い、よかった所には花を飾って認め合うことができるようにする。 ・授業中の活動の様子や姿勢などをデジタルカメラに納めておきテレビ画面で紹介することにより、お互いに認め合ったり自分の活動を振り返ったりすることができるようにする。 ◆自分たちで気付くことができにくいときには、教師からがんばっていたことを紹介し、上達した喜びや達成感を味わうことができるようにする。 ◇自分や友達のがんばったところを見付けることができる。		デジタル カメラ

6 本題材の反省と課題

本題材は、自立活動として取り上げた「くすのきショップをしよう」から、店の看板やお客さんへの案内状を書くという活動を書写学習で行ったことにより、児童は意欲をもって取り組めた。



< 3つのポイント >

○ つかむ活動

本学級の児童は、自分でめあてをもつことが難しいため、3つのポイントを提示して選ぶ形式をとった。3つをしっかりと読み比べて自分が気を付けるべきことに気付くことができたのはよかった。これからも少しずつ経験を増やして、自分でめあてを見付けるという活動へ結び付けていきたいと思う。

○ すすめる活動

本時で書く内容を一覧表にして順にまとめたことで、表記に迷うことなく活動することができた。また、見通しをもって学習を進めることができ、効果的であったと思う。下敷きの枠や罫線、位置取りのための丸い紙などに合わせて丁寧な字を書くことにした。こうすることにより大きくのびのびとした字を書くことができたのでよかった。

用紙の大きさや用具の種類については、指導者が本時のめあてや活動内容に合わせてしっかりと吟味して準備することが大切であると思った。またどの筆記具がどんな太さか、使いたい用紙の大きさに合っているかなど、もっと児童自身に気付かせる活動が必要であると感じた。



○ 確かめる活動

できた作品を並べて見ながら、自分や友達の頑張ったところに花を飾る活動は、視覚的にも分かりやすくよかった。教師の励ましや称揚はもちろん大事だが、本学級の児童はお互いにほめてもらえるとさらに意欲が増す傾向にあるため、今後も相互評価の場を大切にして進めていきたいと思う。



Ⅲ 研究の成果と今後の課題

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

《基礎・基本の重視》

各学年における書写の基礎・基本を明らかにし、年間指導計画を作成した。毎時間の書写の時間や週1回の書写タイムで姿勢や鉛筆の持ち方、点画等の基礎・基本を指導した。このことを通して、文字に対する基本知識の定着や技能の向上が見られた。また、姿勢や筆記具の持ち方に気を付けようとする意識も高まってきている。

基礎・基本の定着のために、教材・教具の研究を進め、水書用紙や砂文字などいろいろな教具を取り入れたことにより、児童の学習意欲が高まった。

今後も、系統性のある基礎・基本を重視し、引き続き指導していきたい。また、目的に応じた教具を整備してきているが、さらに、発達段階や個に応じた教具を工夫していきたい。

《意欲の育つ学習過程の工夫》

課題解決学習を取り入れることにより、児童が自分のめあてをもち、課題を解決しようと進んで練習に取り組む姿が見られるようになってきた。また、学習過程が定着し、児童も教師も見通しをもって取り組めるようになってきた。しかし、自分のめあてをつかませるために時間がかかり、練習時間を確保することが難しかった。めあてが早くつかめる工夫をしていかなければならない。また、自分の決めためあてと学習課題とにずれがある児童がおり、自分の上達を実感させるにくかった。自己批評、相互批評、教師による批評を何度も繰り返しながら、自分の文字を客観的に観る力をつけていく必要がある。

《上達した喜びを味わえる評価の工夫》

自分の上達を実感できたり、お互いの伸びを認め合えたりできるように自己評価や相互評価を取り入れることにより、友達や教師に認められた成就感を味わわせることができた。また、めあてを確認しながら友達の伸びを見付ける力が付いてきた。さらには、それを伝える言語力も徐々に身に付きつつある。めあてに沿った自己評価や相互評価ができる力を低学年から養っていききたい。そして、互いの思いを適切に伝え合うことができる力を他教科などでも培っていききたい。

《生活に生かす工夫》

関連単元を取り入れたことにより、他教科等の書字活動において、書写の時間に学習したことを意識して生かそうとするようになってきた。また、教師が書写の基礎・基本を意識して声掛けをするようになり、児童も文字を正しく書こうと意識するようになってきた。しかし、まだまだ書写の基礎・基本を自分のものとし、生活や他の教科に活用していこうとする力は十分とは言えない。書写の時間に学んだことが生かされているという意識を児童がもてるような場を設定したり、全体で紹介し合ったりすることや、他教科等との効果的な単元構想を考えていくことで、書写で学んだ力を伸ばしていきたい。

お わ り に

「上手に書けてうれしいから。」「自分が決めたためあてが達成できるとうれしいから。」
「練習方法がいろいろあるから。」「見せ合ったとき、友達がほめてくれるのでうれしいから。」
「筆でいろいろな字を書いていると、鉛筆で字を書く時もきれいになるから。」

これは、平成23年7月に実施した本校の書写アンケートの中で、「書写の勉強が楽しい。」と答えた児童の、楽しいと思う理由についての自由記述の一部です。

本校では、平成22・23年度岡山県習字教育研究会及び井原市教育委員会の指定を受け、「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成 ―自ら学び、生活に生かす書写学習―」を主題として、研究を進めてきました。

研究を進めるにあたっては、「基礎・基本の重視」「意欲の育つ学習過程の工夫」「上達した喜びを味わえる評価の工夫」「生活に生かす工夫」を研究の重点内容として、書写学習における課題解決学習に取り組んできました。まだまだ試行錯誤の繰り返しではありますが、前述のようなアンケート結果の中に、また、自分の課題をもって生き生きと書写練習に取り組む児童の姿の中に、成果の一端を垣間見ることもできました。

職員一人一人が知恵を出し合い、一歩ずつ進めてきた研究ですが、実践を通して見えてきた課題も多く、今後も多くの方々のご指導をいただきながら、研究を進めていきたいと思えます。

終わりにになりましたが、御多忙の中、熱心なご指導をいただきました講師の先生をはじめ、本校の研究を支えてくださった関係各位、保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導・ご支援をお願いいたします。

研 究 同 人

落合 敏恵 遠藤 誠 柚木 文恵 熊原 重子 道面 淳代 河合 浩

川上 博子 谷本 淳子 生田 悦子 毛利 紀子 竹正 剛 藤原 哲生

浅野麻衣子 定光 俊郎 平木 美樹 山足 敏子 小寺 文子 横田久仁子

<旧研究同人>

木山 博文 荒川 光平 畑田 容子